

PROJECT MANAGEMENT SYMPOSIUM JAPAN 2023

PMシンポジウム 2023

「未来に備える」

～次世代のプログラム・プロジェクトマネジメントについて共に考える～

9 / 7 Day 1 THU – 8 Day 2 FRI

タワーホール船堀 (2階『瑞雲』)

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後援：経済産業省(METI) 予定 / 一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA) 予定

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) 予定 / 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 予定

一般社団法人 PMI 日本支部(PMIJ) 予定

ハイレックス
開催

会場&オンライン

会場参加中止の場合あり
詳細はWEBページを
ご確認ください

PMシンポジウム 2023

PMシンポジウム2023大会テーマ

「未来に備える」

～次世代のプログラム・プロジェクトマネジメントについて共に考える～

今回のシンポジウムのテーマは「未来に備える ～次世代のプログラム・プロジェクトマネジメントについて共に考える～」です。長引くCOVID-19による混乱、軍事侵攻の長期化など、VUCA（未来が予測困難）と呼ばれる社会情勢に企業が生き残るためには、未来に挑戦する姿勢が必要だと考えます。

さらに、企業はDX時代という不確実性が増す中で、環境の変化に対応した組織戦略を立て、実行するため、PMプロフェッショナル（プログラム&プロジェクト・マネジャー）は従来の目標達成に加え、組織の変革を支援する責務があります。

DXは、「今起きている未来」です。このため、未来を先導する人材として、先進デジタル技術を活用した企業変革やビジネス・イノベーションを推進する高度なシステム構築と全体を支えるプログラム&プロジェクトマネジメント力が一層求められています。

未来に備えるために、ビジネス・イノベーションやアジャイル開発等のマルチスキルにも対応した次世代のPMプロフェッショナルの需要が大きくなってきます。PMシンポジウム2023では幅広い分野の取り組みや事例をご紹介します。プログラム&プロジェクトを効果的に活用するノウハウを習得し、未来に備えるマネジメントの実現に繋げる一助となれば幸いです。

各種ポイントの発行について

発行ポイントは次のとおりです。

CPU

■ Day1 : 12ポイント ■ Day2 : 12ポイント

PDU

■ Day1 : 6PDU ■ Day2 : 6PDU

PMP[®] 資格認定試験用受講証明書を発行いたします

ITC実践力ポイント

■ Day1 : 1.5ポイント ■ Day2 : 1.5ポイント

「PMI」「PMP」「PMBOK」は、Project Management Institute, Inc.(PMI)の登録商標です。

「BABOK」は、International Institute of Business Analysis (IIBA)の登録商標です。

「MSP」「PRINCE2」「ITIL」は、AXELOS Limitedの登録商標です。

「IPMA」「ICB」「OCB」「IPMA Delta」は、International Project Management Association (IPMA)の登録商標です。

「PMA」「P2M」「PMR」「PMS」は、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の登録商標です。

KN-1

Society5.0時代のシステムデザインの特徴

10:00~11:00

～プログラム・プロジェクトマネジメントで考慮すべきこと～

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 白坂 成功 ^W

AI、IoT、通信などのデジタル技術の進化により、ビジネスだけでなく、社会・産業構造も大きく変革の時期を迎えている。日本政府はそのような社会・産業構造の変化をチャンスとして捉え、Society5.0という名をつけて、日本における新たな産業の創出を目指そうとしている。一方で、Society5.0という時代におけるシステムは、これまでのシステムとは異なった特徴を持っており、システムデザインやその実装において考慮しなければいけないことも多い。本講演では、次世代のプログラム・プロジェクトマネジメントをおこなう上で考慮すべき点とその考え方について、デジタル技術が創る人間中心の新しい社会であるSociety5.0時代のシステムデザインの特徴や具体的な例を通じて説明する。



【講師略歴】

東京大学大学院修士課程修了（航空宇宙工学）、慶應義塾大学大学院後期博士課程修了（システムエンジニアリング学）。大学院修士課程修了後、三菱電機にて15年間、宇宙開発に従事。HTV、準天頂衛星などの開発に参画。三菱電機（株）を経て現職（慶應義塾大学大学院SDM研究科 教授）。専門分野は大規模システム開発、技術・社会融合システムのイノベーション創出方法論やシステムズエンジニアリング。内閣府宇宙政策委員会委員等、政府委員会委員を務める。

KN-2

インフラの未来

10:00~11:00

インフロニア・ホールディングス株式会社 代表執行役社長 兼 CEO / 前田建設工業株式会社 代表取締役執行役員副社長 岐部 一誠 ^B

日本のインフラは老朽化が進んでいるが、少子高齢化・人口減少・税収減収の中で社会インフラの維持・更新をどのように行っていくかが大きな課題となっている。その解決方法を考えるうえで、

- ①インフラ整備における担い手の役割などが、歴史的に変化してきていること、
- ②インフラに関わるエンジニアリングとファイナンスの定義も同様に変化してきていることを分析し、
- ③インフロニアホールディングスがそれらを解決するために行っているチャレンジを、具体的なプロジェクトを例にして説明する。
- ④最後に今後のプロジェクトマネジメントに求められものについて問題提起を行う。



【講師略歴】

インフロニア・ホールディングス株式会社 取締役 代表執行役社長 兼 CEO。前田建設工業株式会社 代表取締役執行役員副社長。1986年前田建設工業へ入社。総合企画部長、常務執行役員経営企画担当 兼 事業戦略本部長などの職務を経て、2021年より代表取締役執行役員副社長に着任。そして同年10月、前田建設工業・前田道路・前田製作所の3社共同でインフロニア・ホールディングスを設立し、同社代表執行役社長 兼 CEOに就任。

9/7
THU
Day
1

Live 9/7ライブ配信／9/12～10/8オンデマンド配信

9:45～10:00	開会挨拶	
10:00～11:00	基調講演 【KN-1】Society5.0時代のシステムデザインの特徴 ～プログラム・プロジェクトマネジメントで考慮すべきこと～ 慶應義塾大学大学院 白坂 成功	W
11:15～12:15	主催者講演 【SP-11】プロジェクトマネジメントの潮流とP2Mガイドブック改訂 PMAJ 加藤 亨	W
13:00～14:00	特別講演 【SP-12】富士通の挑戦、「OneFujitsu」プログラムの全貌 ～全社変革を完遂させるための要諦とは～ 富士通 馬場 俊介	B
14:15～15:15	特別講演 【SP-13】東銀座街づくり構想 ～東銀座のエリアマネジメント～ 松竹／一般社団法人東銀座エリアマネジメント事務局 渋谷 正芳	B
15:30～16:30	特別講演 【SP-14】食・酒・人・宴で土佐の未来を創る！ ～食が美味しい！酒が旨い！人が明るい！宴が楽しい！～ 司牡丹酒造 竹村 昭彦	B
16:45～17:45	特別講演 【SP-15】クライアント・ベンダー一体となった未知ビジネス領域への挑戦 ～金融業界慣行のDX化を目指すプラットフォーム～ 東京証券取引所 谷岡 和臣	B

一般講演 9/7～10/8オンデマンド配信

【PM】プロジェクトマネジメント実践 【A-1】 自立的なプラントと組織 ～プロダクト・プロセスイノベーションの実践～ 日鉄エンジニアリング 古家 秀彦 P	【PM】プロジェクトマネジメント実践 【A-2】 IT分野へのP2M実践の活用 ～事例から学ぶ組織の目的を具現化する戦略的アプローチ～ ピーエム・アライメント 佐藤 義男 W	【PM】プロジェクトマネジメント実践 【A-3】 心理的安全性と成果を両立させるWA(和)のプロ ジェクトマネジメント～プロジェクトマネジメントのDX～ 富士通 中江 功 P	【PM】プロジェクトマネジメント実践 【A-4】 PMRが語る プログラムマネジメントの人材育 成への活用～プログラムマネジメントの実践事例～ PMAJ会員活動 Advanced PMR Club 枝窪 肇／藤澤 正則／薄井 昭人 B
【IN】イノベーション 【A-5】 新規事業創出における製品・サービス開発プロ ジェクト～サービスプラットフォームの構築に向けて～ 岩谷産業 鳥生 雅己 B	【PM】プロジェクトマネジメント実践 【A-6】 ダブループ学習で現場を活性化し、DXでECM/SCM の全体最適実現～経営と現場を繋ぐ、DX推進リーダーの重要性～ 横河電機 勝木 雅人 CfP P	【PS】プロジェクトマネジメント・スキル強化 【A-7】 DXの“べき論”を現実落とし込む～組 織変革の悩みを解決する実践アプローチ～ PMAJ会員活動 組織アジリティSIG 小原 由紀夫 P	【PS】プロジェクトマネジメント・スキル強化 【A-8】 曖昧なミッション・ビジョンを納得感ある実行 計画に落としこむ「ロードマッピング」プロセスの提案 PMAJ会員活動 ロードマッピングSIG 宮川 優理 B
【PS】プロジェクトマネジメント・スキル強化 【A-9】 プロジェクトの未来に必要な回復力(レジリエンス)向 上事例～レジリエンスを高めるために必要なPMの心構え～ アップウェア 三澤 猛 CfP P	【PS】プロジェクトマネジメント・スキル強化 【A-10】 PMBOK® 第7版の残虐な本質～価値実現 はタレンツイズムに流れる。そして、戻れない～ トヨタシステムズ 河路 裕司 CfP P	【BS】戦略及びビジネスマネジメント 【A-11】 DXと共に進化するPM～デジタルトランスフォーメ ーション(DX)によって進化するプロジェクトマネジメントについて～ Hexagon 山内 重樹 B	【BS】戦略及びビジネスマネジメント 【A-12】 小売流通システムのDXに向けた現状と課題 ～競争から協働のサプライチェーン構築に向けた取り組み～ 学習院大学 河合 亜矢子 P
【BS】戦略及びビジネスマネジメント 【A-13】 中国人との仕事でトラブルを起こす日本人の 潜在的課題～駐在者は知る、誰でもできる3つの改善～ ロジ 小田 淳 P	【BS】戦略及びビジネスマネジメント 【A-14】 百貨店のオムニチャネル化へのヒント～パー チャル消化仕入による業界変革に向けた取り組み～ 富士通 近藤 仁 CfP B	【SS】社会課題解決 【A-15】 デザイン×社会課題×女性のエンパワ メント～創造力とリーダーシップを育むヒント～ ハナラボ 角 めぐみ P	【IN】イノベーション 【A-16】 農業を通じて人を幸せにする～マネジ メントができる農業者を育てるために～ トップリバー 嶋崎 田鶴子 P
【SS】社会課題解決 【A-17】 都市間連携でデータを共有するスマートシ ティ～デジタル田園都市国家構想をどう活用するか～ アーキテクトランドデザイン 豊崎 慎久 B	【SS】社会課題解決 【A-18】 アフリカ農村部向け、プリペイド式自動井戸金回収システム～なぜ未 だに安全な水にアクセスできないのか？アフリカに潜んでいるのか？解決するの？～ Sunda Technology Global 坪井 彰 B	【SS】社会課題解決 【A-19】 【企業×NPO連携の好事例】ブックサンタと は？～本好き必見！あなたも誰かのサンタクロース～ チャリティーサンタ 清輔 夏輝 B	【SS】社会課題解決 【A-20】 NPO・株式会社との連携による社会課題 解決手法～母子向け居住支援の取り組み～ NPO法人LiveEquality HUB／千年建設 岡本 拓也 B
【SS】社会課題解決 【A-21】 宇宙ミッションを取り込んだ「東北復興宇宙プロ ジェクト」～一般市民が参加するユニークな宇宙事業～ ワンアース 長谷川 洋一 CfP B	【SH】その他人文学分野 【A-22】 あなたの経験が社会を変える～JICA×芸人× Jリーグ通訳 デュアルキャリアが動かすプロジェクト～ JICAデスク佐賀 石川 光 P	【IN】イノベーション 【A-23】 ゲノム医療を支援する説明可能AIを目指 して～医療向けAI技術開発で求められること～ 富士通 富士 秀 W	

Day1 Day2
共通

Day1/Day2共通 9/7～10/8オンデマンド配信 (本シンポジウムにお申込みされた方)

【EX-1】 企業で取り組むプロジェクト 管理の仕組み作り～そのポイントと は！～ TIS千代田システムズ 石橋 延浩	【EX-2】 今からはじめるCCPM ～LycheeRedmineを使った顧客要 望を短納期で実現する実践手順～ アジャイルウェア 小路 慎浩	【EX-3】 プロジェクトマネジメント資 格と対策講座のご紹介～P2M 資格 (PMC、PMS)にチャレンジ！～ パナソニック ソリューションテクノロジー 中島 貴代子
--	--	---

9/8
FRI
Day
2

Live 9/8ライブ配信／9/12～10/8オンデマンド配信

10:00～11:00	基調講演 [KN-2] インフラの未来 インフロンニア・ホールディングス/前田建設工業 岐部 一誠	B
11:15～12:15	特別講演 [SP-21] 日本の複雑さはマネージメント責任か ～ヒット商品分解から海外と日本の差を明るみにする～ テカナリエ 清水 洋治	B
13:00～14:00	特別講演 [SP-22] プログラム&プロジェクトマネジメント(P2M) ～価値創造の源泉と医薬品研究開発における活用事例～ 大阪大学医学部附属病院 岩崎 幸司	W
14:15～15:15	特別講演 [SP-23] 宇宙ミッションにおけるプロジェクトマネジメント成功の秘訣 宇宙航空研究開発機構 久保田 孝	W
15:30～16:30	特別講演 [SP-24] Downstreamから学ぶDX 宮城大学 中田 千彦	W
16:45～17:45	特別講演 [SP-25] 日立グループの成長戦略実行に向けた人材育成 ～自律的に学び続ける人材を育てるには～ 日立アカデミー 鳥居 和功	P

一般講演 9/8～10/8オンデマンド配信

[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-1] 上流工程から参画による運用最適化へのアプローチ～運用実績反映による品質向上の取組み～ 富士通エフサス 遠藤 貴芳	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-2] データドリブンなソフトウェア開発プロジェクトマネジメント～プロジェクトマネージャ、PMOを支援するAI技術～ 日立製作所 川上 真澄	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-3] PETRONAS Floating LNG 2 Project～深海域中小ガス田開発プロジェクトの課題克服～ 日揮グローバル 小澤 智樹	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-4] NASAのISSプログラムマネジメント～「きぼう」の開発で経験したプログラムマネジメント～ PMAJ会員活動 PMマイスター 長谷川 義幸
[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-5] 身近な宇宙開発を目指して～JAXA有人宇宙活動における最新状況～ JAXA 勝田 真登	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-6] DX時代における製造部門の役割と人材育成～設計製造リンク&ループと経験学習モデル～ RDPI 石橋 良造	[PM] プロジェクトマネジメント実践 [B-7] DX時代におけるプロジェクト課題の傾向と対策におけるポイント～炎上プロジェクトの傾向と対策の提言～ SHIFT 山崎 陽一	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-8] PMBOK® 第7版12の原理・原則を事例で伝える「ものがたり」～活動状況と試作品の紹介～ PMAJ会員活動 PMノウハウ継承研究会SIG 吉野 均/廣瀬 守克/新谷 幸弘
[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-9] PRINCE2の「プロジェクトの指揮」～プロジェクト委員会による利害調整とコントロール～ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 木下 雅治/尾形 順一	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-10] PMBOK®ガイド 第7版概要解説～Outline of PMBOK® Guide Seventh Edition.～ PMAJ会員活動 PM研究・研修部会 大泉 洋一	[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化 [B-11] 今までの常識を打破る新たなマネジメントとは～ゆとりを創り未来を切り拓くマネジメント～ Goldratt Japan 服部 雅臣	[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [B-12] 人と組織を元気にする「やわらかデザイン」～社内SNSとデザイン思考で企業文化を変える～ 富士通 加藤 正義
[BS] 戦略及びビジネスマネジメント [B-13] プラントエンジニアリングにおける自動設計機能を備えた次世代型CADシステム「PlantStream®」 PlantStream 愛徳 誓太郎	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-14] 関係人口のプロジェクトマネジメント～関係人口と地域の共存共栄～ Work Design Lab 伊藤 紗恵	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-15] メンバーが主体的に考え動く愛に溢れたチームの創り方 DelSole 上林 恵	[HR] 人材育成・働き方改革 [B-16] 個と組織をどう考える～キャリアコンサルタントの視点から～ BIPOGY 三宅 ひろみ
[SS] 社会課題解決 [B-17] 中小企業のDXとは？～今こそ取り組もう！デジタル化5つの大原則～ DX学校/ディグナ 梅崎 健理	[SS] 社会課題解決 [B-18] 未来を創る住民主体の地域づくり～地域の母親達が生み出すエンパワーメントと循環～ やっぺす 高橋 洋祐	[SS] 社会課題解決 [B-19] 青森ねぶた史上初！再生可能エネルギーによる「ねぶた」点灯への挑戦 日立製作所 川内 英明	[SS] 社会課題解決 [B-20] 地方行政DX最前線で先駆者として躍動！～行政職員×民間企業人材双方方向リスケリング～ 富士通Japan 田中 由加/中川 裕/由比 良雄
[SS] 社会課題解決 [B-21] これからの時代に求められる働き方とは？～VUCAの時代における「最適解」をどう導き出すのか～ イトーキ 横溝 信彦	[SS] 社会課題解決 [B-22] これからの社会の危機に行動できる人を創る～まだ見ぬ危機を想定する～ 持続する社会を希求する人 岡崎 博之	[IN] イノベーション [B-23] データドリブンによる品質保証の実現に向けて～AIによる不採算予測検知-プロジェクトメンバーのモチベーションを可視化～ 富士通 吉川 啓介	[IN] イノベーション [B-24] 実践に生かす「システム×デザイン思考」～個人の発想だけにたよらない体系的なビジネス協創～ コンサルタント/法政大学大学院/慶應義塾大学大学院 大塚 有希子

は、皆様ご視聴頂けます)

[EX-4] DX実現に向けてのプロジェクトモデルの適用～プロジェクトシミュレータ:TeamPortの紹介～ グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン 池 大	[EX-5] PMツールの導入のメリットと選び方 Smartsheet Japan 平松 直樹/加藤 太一	[EX-6] MSP第5版の概要紹介～英国政府が開発したプログラムマネジメント標準の最新版を理解する～ PeopleCert 木下 雅治	[EX-7] PM実務家の生涯学習の場と手段と指針を提供する～PMAJニュービジョン～ PMAJ 加藤 亨	[EX-8] 日本プロジェクトマネジメント協会の活動紹介 PMAJ 事務局
--	--	---	--	--

※講演者・講演内容・タイトル等が変更となる場合がありますのでご了承ください

主催者講演 SP-11

プロジェクトマネジメントの潮流とP2Mガイドブック改訂

11:15～12:15

日本プロジェクトマネジメント協会理事長

加藤 亨 W



P2Mガイドブック初版の序文に「世界標準でほとんど記述のないプログラムマネジメントの領域に初めて切り込んでいるが、その理由は現代社会の複雑な課題をプログラムに複合してこそ解決できると考えるからである。」と記述されています。今、世界は価値観を異にする国や経済圏が覇権を争う様相を呈しており、そこにパンデミックや激甚災害などの「複雑な課題」が絡み合う混沌とした状況になっています。この状況を受

けて、グローバルPMの潮流もPMBOK第7版が価値実現システム重視の方向へ大転換したように、プログラムマネジメント重視の方向へシフトして来ています。P2Mでは初版からプロジェクトを「価値創造事業」と定義し、プログラムマネジメントと統合したマネジメントの重要性を提唱してきました。第4版では、新たなプログラム&プロジェクトマネジメントの在り方を示すべく執筆を進めており、その概要をお伝えします。

【講師略歴】

1978年 千代田化工建設(株)入社後、同社の様々な情報化プロジェクトを担当後、同社グループ企業の執行役員、取締役、社長を歴任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP、技術士(情報工学部門、総合技術監理部門)、システムアナリストなど

特別講演 SP-12

富士通の挑戦、「OneFujitsu」プログラムの全貌

13:00～14:00

富士通株式会社 執行役員 EVP CDPO

馬場 俊介 B



非連続に激しい変化が続く今の時代、多くの企業が生き残りをかけてDXに取り組んでいるが、その内実は目先の業務効率化・自動化にとどまっている例も少なくない。自らのパーパスを実現するために富士通が全社を挙げて取り組んでいる「OneFujitsu」プログラムとはいったい何を指しているのか。単なる社内IT基盤の刷新にとどまらず、業務プロセスそのものを変革する壮大な挑戦と捉え、DX企業に

生まれ変わるために取り組んでいる現状を共有する。客観的なデータに基づく意思決定ができる基盤の構築。業務・地域毎に個別最適されたデータ・業務プロセスの徹底的な見直し・標準化。長年慣れ親しんできた慣習から決別し、足元のビジネス課題解決とゼロベースでのビジネス変革を並走するために、今まさに直面している推進上の課題や、それらを解決するためアプローチと実践例を紹介する。

【講師略歴】

1993年早稲田大学教育学部卒。同年、富士通株式会社入社。金融担当SEとしてネット専業銀行設立プロジェクト、メガバンク大規模基幹プロジェクト等においてPMを歴任し、いずれも成功裏に導く。理事・グローバルサービステクノロジー本部部長を経て、現職。2020年より全社変革プログラムOneERP+をリードする。

特別講演 SP-13

東銀座街づくり構想

14:15～15:15

～東銀座のエリアマネジメント～

松竹株式会社 エリアマネジメント推進室長／一般社団法人東銀座エリアマネジメント事務局長

渋谷 正芳 B



世界的なブランド街である「銀座」と「築地」。その間に駅名のみ存在する「東銀座」。歌舞伎座や新橋演舞場を擁し、日本の伝統文化の発信拠点というイメージはつくがそれ以外の印象は曖昧かもしれない。そんな東銀座エリアのブランド化を目指し、地域価値を維持向上させ、銀座・築地エリアとの相乗効果を生み出し、住民・在勤者・来街者の交流を促進するエリアマネジメントプロジェクト。社内プロジェクトから始

まり、オリンピックを契機として地域一体となった「東銀座まちづくり推進協議会」、「一般社団法人東銀座エリアマネジメント」という街づくり組織を設立。コンセプトは「今と昔を結ぶ街、人と人とを結ぶ街」。プロジェクト立上げ、組織設立経緯、活動内容、将来の展望など、実例を通して紹介する。

【講師略歴】

2018年松竹(株)に入社。不動産営業と兼務で、2020年松竹の新規事業である東銀座エリアマネジメントプロジェクトを立上げ。東銀座エリアの30の企業、団体、行政組織などで東銀座まちづくり推進協議会、一般社団法人東銀座エリアマネジメントを設立。事務局長としてまちづくり推進中。

特別講演 SP-14

食・酒・人・宴で土佐の未来を創る！

15:30～16:30

～食が美味しい！酒が旨い！人が明るい！宴が楽しい！～

司牡丹酒造株式会社 代表取締役社長

竹村 昭彦 B



土佐の高知ならではの、他地域にはない最大のウリは、「食が美味しい！酒が旨い！人が明るい！そして世界一宴が楽しい酒国土佐！」であると考え。そして、この「食」「酒」「人」「宴」をさらにブラッシュアップしていくことで、日本中、世界中から観光客が集まってくるという未来、土佐の高知の明るい未来を創り出すことができると考えている。

【講師略歴】

昭和37年高知県高岡郡佐川町に生まれる。学習院大学経済学部経営学科を卒業後、東京のファッション雑貨&食品の会社に入社し5年間営業を勤めた後、平成2年に高知に戻り、司牡丹酒造(株)に入社。平成11年、同社代表取締役社長に就任し、現在に至る。平成18年より土佐学協会理事長に就任し、現在に至る。平成27年より高知県酒造組合理事長に就任し、現在に至る。

特別講演 SP-15

クライアント・ベンダー一体となった未知ビジネス領域への挑戦

16:45～17:45

～金融業界慣行のDX化を目指すプラットフォーム～

株式会社東京証券取引所 IT開発部トレーディングシステム担当 課長

谷岡 和臣 B



変化の速い現代において、「ビジネス・IT一体となって」という言葉はビジネス変革の文脈でよく使われるが、これまでのクライアント企業とITベンダの関係性、つまりお金の出し手と受け手という関係性から、真に会社の垣根を超えたビジネス・IT両輪を実現し、そしてプロジェクトを成功に導くのはなかなか難易度の高いテーマである。そうとはいえ、未知領域への取り組みには、ビジネス・ITの一体化がアジリティ確保

に欠かせない。本講演では、東京証券取引所と富士通が両者一体となってチームを組成し、徹底的なデザイン思考とリーンスタートアップ・アジャイル手法を用い、銀行等日本金融機関のETF取引プラットフォーム構築提供という、取引所にとって未知の顧客・未知のビジネス領域に挑戦し、業界慣行のDX化を目指すプロジェクトの内容について紹介する。

【講師略歴】

入社以降、上場会社、証券会社や海外投資家への誘致・コンサルティングを通じ、コネクティビティサービス等新たなビジネスの企画・推進に尽力。現在、ミッションクリティカルシステムである取引所売買システム開発を担当するとともに、新規サービスであるETF取引プラットフォーム“CONNEQTOR”の開発・提供を進めている。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-1 自立的なプラントと組織
～プロダクト・プロセスイノベーションの実践～



日鉄エンジニアリング株式会社
技術統括センター長（執行役員）

古家 秀彦 P

日鉄エンジニアリングではAI・ロボティクス等の技術活用により自立的なプラント操業の実現を目指している。プラント引き渡し後も日々進化する技術を取り入れ、プラントそのものが進化し、最終的には自立的な操業を実現することをコンセプトとしている。これらを実現するためには、技術者一人ひとりが高いリーダーシップを発揮し、かつ既存の業務の生産性を向上することが不可欠である。本講演では、当社が目指す自立的なプラントの姿を説明すると共に、それらを実現する組織の開発について実例を踏まえて紹介する。

【講師略歴】

1993年 新日本製鐵入社 エンジニアリング事業本部にて環境プラント廃棄物溶融炉の電気計装設計に従事。2010年 制御システム技術センター技術企画室長、2014年 技術本部技術総括部長、2017年 北九州技術センター制御技術部長を経て、2022年4月 執行役員、2023年4月より技術統括センター長。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-2 IT分野へのP2M実践的活用
～事例から学ぶ組織の目的を具現化する戦略的アプローチ～



株式会社ピーエム・アライメント
代表取締役社長

佐藤 義男 W

企業のDX推進は、プログラム＆プロジェクトによって実行される。このため、PMプロフェッショナルはDXを先導し、組織の変革を支援する責務がある。本講演ではDX推進を支援し、全体を支えて組織の目的を具現化する「プログラムマネジメント」(P2M)について、IT分野のプログラムマネジメント実践事例を通して、その活用ノウハウを解説する。

1. プログラムマネジメントの必要性
2. 日本でのプログラムマネジメント認知度
3. プログラムマネジメント標準(P2M)の概要
4. IT分野のプログラムマネジメント実践事例
5. 他のPM方法との違い
6. P2M普及アプローチ

【講師略歴】

石川島播磨重工業(現IHI)にて、原子力発電所検査データ収集・処理システム、AI応用システムなどの開発・管理経験16年。日本ディジタルイクイップメントにて、プロジェクトマネジメント実践経験を活かして指揮・監督を行う。現在、(株)ピーエム・アライメントを設立し、企業向けにPMコンサルティング・サービスを提供。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-3 心理的安全性と成果を両立させる
WA(和)のプロジェクトマネジメント
～プロジェクトマネジメントのDX～



富士通株式会社
Division GTM & Strategic Partner Division長

中江 功 P

世の中でDXが進み出しているが、それを実現するためのプロジェクトは従前から変わらずアナログなマネジメントでパワープレーに頼っており、決して心理的安全性が確保されているとは言えない状況が続いている。業務変革が進む中、マネジメントは変わらずコミュニケーション不足やストレスが問題となっている。このような環境ではDXプロジェクトに魅力を感じず、日本はDX後進国になりかねない。心理的安全性を確保し、個と組織の成長を促し、多様な価値観を持った人材が集まり、イノベーションが生まれる魅力あるプロジェクトや組織に転換する必要がある。プロジェクトマネジメントを全体最適ヘトランスフォーメーションをすることで、プロジェクトの文化、風土を変革させ、心理的安全性を確保し、同時に目覚ましい成果を出し続けるWA(和)のプロジェクトマネジメントを事例を交えてご紹介いたします。

【講師略歴】

富士通にて主に大規模ERP(SAP)導入に関するPMを長年担当し、現在はビジネスアプリケーションビジネスの拡大のために戦略パートナーとのエンゲージメント向上を担務。日本TOC協議会 理事を務めており、日本を元気にするためにTOCを普及、活用する活動も実施。2017年4月に発刊された「進む! 助け合える! WA(和)のプロジェクトマネジメント」(ダイヤモンド社)で取り上げられた大和ハウス工業様のSAP導入プロジェクトの富士通側のプロジェクトマネジャー。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-4 PMRが語る
プログラムマネジメントの
人材育成への活用
～プログラムマネジメントの実践事例～



PMAJ会員活動
Advanced PMR Club

枝窪 肇/藤澤 正則/薄井 昭人 B

Advanced PMR Clubは、プログラムマネジメントの普及促進を目的に2018年より活動しており、2020年よりPMシンポジウムにおいて「プログラムマネジメント事例」を紹介してきている。今回は、人材育成への活用をテーマに、プログラムマネジメントを実務に取り入れ実践した事例を紹介する。

1. 社内教育「職場の困りごとを解決する」での実践事例
 2. PM社内資格認定制度を構築する際にプログラムマネジメントを用いた事例
- 事業継続にとって人的資本の拡充が重要であり、今回はいづれも、プログラムマネジメントを基礎から地道に実践することで成功に導いた事例であり、それを理解するのに適した題材である。

【講師略歴】

枝窪 肇: 電機メーカー勤務34年、システムエンジニアリング～PM～品質保証に従事/藤澤 正則: 食品メーカー勤務37年。PMS(2000年)PMR(2005年)取得、自社の課題解決にP2Mのプログラムマネジメントを実践中。優秀貢献賞受賞(2019年)/薄井 昭人: 電機メーカー勤務32年、システムエンジニアリング～PM～PMOに従事

[IN] イノベーション

A-5 新規事業創出における
製品・サービス開発プロジェクト
～サービスプラットフォームの構築に向けて～



岩谷産業株式会社 情報企画部 副長
イワタニゲートウェイ株式会社 (出向)

鳥生 雅己 B

岩谷産業株式会社は、ガス&エネルギーを起点とした専門商社である。70年にわたるLPガス事業を営むなかで培ってきた、北海道から沖縄までのLPガス事業基盤を活用して「エネルギー生活総合サービス事業者」を目指す。実現するために、ガス警報器に通信機能を持たせて様々なサービスを提供する「イワタニゲートウェイ構想」を掲げ、「安全」「健康」「環境」といったお客様と社会の課題を解決する新規事業の創出を狙う。本講演では、当社がハードウェア・ソフトウェアを用いた製品・サービス開発に対して、プロジェクトマネジメントの知見をどのように活用したのか事例を通じて説明する。

【講師略歴】

2012年岩谷産業株式会社に入社。2020年3月慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修了。在学中に米国PMI認定PMPを取得し、現在の新規事業に従事する。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

A-6 ダブルループ学習で現場を活性化し、
DXでECM/SCMの全体最適実現
～経営と現場を繋ぐ、DX推進リーダーの重要性～



横河電機株式会社
社長付 フェロー

勝木 雅人 CfP P

DXは、経営戦略の最重要課題として、各社取り組みを加速している。その目的は、デジタル技術の導入に伴い、それを運用する現場がトランスフォーメーションする事で、最大限に価値を進化させ、企業が市場競争力を高め持続的な発展を図ることにある。一方、DX検討の過程で、現場の受動的な受け止めや抵抗感を生じることがあり、理解が得られないなどの理由から、プロジェクト自体がうまく機能しないケースも起き始めている。本講演では、ダブルループ学習へのマインドチェンジから、現場の受け止めが主体的なものに変化し、かつ持続的に進化出来る、現場のマインドや学習する組織に醸成したことを、弊社の実践例を用いて紹介する。

【講師略歴】

1986年横河北辰電機入社。半導体テスト営業本部長、省エネ・環境保全ソリューション本部長、横河ソリューションサービス 執行役員 ソリューションビジネス本部長、2022年横河電機 社長付 フェロー 兼 横河デジタル 取締役。現在、課題解決型ビジネスの確立に向けて、ソリューションの開発、人材育成に従事。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-7

DXの“べき論”を現実に落とし込む ～組織変革の悩みを解決する実践アプローチ～



PMAJ会員活動 組織アジリティSIG
主査

小原 由紀夫 P

組織アジリティSIGでは、組織や企業が市場の変化に対する俊敏性である「組織アジリティ」を焦点として、アジャイル実践アプローチと事例による有効性を示してきた。しかし、組織や企業で実践しようとすると、トップ、ミドル、現場に“壁”が存在することがわかった。これらの“壁”から生じる具体的な悩みを日本の文化的な特徴を含め分析し、DXの“べき論”を現実に落とし込むアプローチを確立した。本講演では、DX推進を先導し、組織全体を支え、トップ・ミドル・現場へのリスクリングによって成功を実現させるためにPMプロフェッショナル・スキルを向上させる実践アプローチを提言する。

【講師略歴】

小原由紀夫(個人コンサルタント):PMIEFのトップを務めたジョン・パットン氏に15年間師事し、組織変革のためのグローバルPMスキルを習得。ケイデンスマネジメント社認定講師。昨年3月まで富士通株式会社にてDXのためのアジャイルを推進。PMAJ編「アジャイル開発への道案内」他を共著。PMP、SPC。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-8

曖昧なミッション・ビジョンを 納得感ある実行計画に落としこむ 「ロードマッピング」プロセスの提案



PMAJ会員活動 ロードマッピングSIG

宮川 優理 B

VUCA Worldと呼ばれる不確実性の高い現代においては、自社の事業の解釈を広げ、新たな領域へのチャレンジを促すことが重要である。ミッション・ビジョンの改訂はその手段として用いられるが、幅広い議論の余地を残す意味で敢えて曖昧な表現に留めているケースが多い。だからこそ、曖昧なミッション・ビジョンを、組織として納得感が持てる実行計画に落とし込むための手法が求められている。「ロードマッピング」はその有効な手段の1つであり、本講演ではそれを実行に移すための具体的なプロセスに焦点を当て、ミッション・ビジョンの実現に向けて組織を動かしていくためのポイントについて提案する。

【講師略歴】

自動車部品メーカーにて、ロードマップを用いた技術戦略立案、および実行マネジメント支援に従事。自動車部品メーカー/医療機器メーカーにて、プログラム・プロジェクトマネジメントの導入、運用支援に従事。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-9

プロジェクトの未来に必要な回復力 (レジリエンス)向上事例 ～レジリエンスを高めるために必要なPMの心構え～



株式会社アップウェア
代表取締役社長

三澤 猛 CFP P

PMBOK®が第7版に改版され、プロジェクトマネジメントの原理・原則に、新たに「適応力と回復力」なるものが加えられた。我々のIT業界では、「適応力」については良く聞く話であったが、もう一方の「回復力」については、あまり聞くことはなかった言葉である。しかし、プロジェクトは様々な困難を乗り越えていく事であり、「回復力」は重要な意味を持つ言葉である。私が過去に経験したプロジェクトの中から、困難が故に、悩んだり、体調が思わしくない状況になった人に「回復力」を如何に持たせていくか、マネジメントする側の心得を三つの事例から、異なったケースを通じてお伝えする。

【講師略歴】

富士通株式会社のSEとして多くのプロジェクトに従事してきた。金融系大規模プロジェクトを多数経験し、重要プロジェクトのPMを歴任してきた。この経験を伝えていくため、現職の傍ら、PM育成や品質向上のためのマネジメント支援など、現在も活動を行っている。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

A-10

PMBOK® 第7版の残酷な本質 ～価値実現はタレンティズムに流れる。 そして、戻れない～



株式会社トヨタシステムズ
ファイナンスIT本部 企画G

河路 裕司 CFP P

PMBOK®第7版の大きな特徴は「価値実現」を前面に推し出したことにある。価値実現を他の人に任せているプロジェクトマネージャーに存在意義はない。この最大の問題点はその成否が結局は「人」によって決まってしまうことだ。ならば価値実現の本質とは「賢い人を集めてバカを排除する」ということになってしまうのだろうか？
我々は一人ひとり異なる個性と能力を持つ。この能力にはある専門性に適するが一方の専門性に適していないものがある。この能力のばらつきが多様性で知的スペックの高度専門化への適応を可能にする。これがタレンティズムの本質だ。これを実現する手段が人的資本経営だ。PMが声をあげ組織を変えていくための具体策を示す。

【講師略歴】

1990年からメガバンクのシステム開発に従事。2003年にトヨタシステムズに移り大型プロジェクトのPMを歴任。2016年からPMOとして組織内のプロジェクトを横断的に指導。アジャイルプロジェクトのSMやアジャイルコーチ、トレーナーとしても活動。また専門職種別のCoEチーム組成を企画推進。同社へのプロフェッショナル認定制度の導入も推進中。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-11

DXと共に進化するPM ～デジタルトランスフォーメーション(DX)によって 進化するプロジェクトマネジメントについて～



Hexagon
Asset Lifecycle Intelligence事業部 インダストリーコンサルタント 山内 重樹 B

デジタルトランスフォーメーション(以下DX)によって、PMも進化を遂げている。DXは、プロジェクトのライフサイクルを通じたデータアクセスと、実用的な洞察を可能とするツールをPMに与えることで、より良い意思決定とインテリジェンスを提供する。DXをPMに活かすためには、データの持つ可能性を解放する事が必要である。DXによって、データの正確性、アクセシビリティ、セキュリティ、および全体的な価値に対する信頼を高め、プロジェクトのライフサイクルを通じて、接続性、コラボレーション、一貫性を向上させる。また、データ駆動型の意思決定を可能とすることで、PMはデータを最大限に活用して、生産性、効率、品質を向上できる。プロジェクトのライフサイクル全体にわたる高レベルなデータ品質と一貫性により、設計から建設、運転、保守までのシームレスな連携は、PMを新たな次元へと引き上げる。本講演ではDXによって、PMが従来サイロ情報から手作業による集計・編集に費やしている時間を、視覚化と分析により多くを移行する為のDXの役割とそのプロセスについて解説します。

【講師略歴】

1989年 工学部 経営工学科卒、1990年 日立造船 入社、2005年 日本インターグラフ シニアコンサルタント、2020年 組織変更に伴いHexagon インダストリーコンサルタント。エンジニアリング・建設・運転・保守のライフサイクルを通したソリューション・プロジェクト管理の提案・コンサルタントサービスを提供している。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-12

小売流通システムのDXに向けた 現状と課題 ～競争から協働のサプライチェーン構築に向けた 取り組み～



学習院大学
経済学部 教授

河合 亜矢子 P

わが国の流通業界を取り巻く環境には物流危機、食品ロスや、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大時に浮き彫りとなった非常時における流通システムの脆弱性など様々な問題が山積している。こうした社会的課題の背景には流通サプライチェーンが長年抱え続けている深刻な課題がある。我々はこれら社会的課題の背景にある流通課題の解決に向けた取り組みを行っているが、複数の企業組織をまたぐ利益相反や古くからの業界慣習にどう向き合うかという問題があり舵取りが非常に難しい。まだ目に見える成果獲得までには時間を要するが、本講演ではこれまでの活動と今後の展望について紹介する。

【講師略歴】

筑波大学大学院システム情報工学研究科博士後期課程社会システム・マネジメント専攻修了後、同研究科経営・政策科学専攻サービスイノベーションプロジェクト研究員。高千穂大学経営学部助教を経て2017年より学習院大学経済学部教授。専門はサプライチェーン&オペレーションズマネジメント、経営情報システム。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-13

中国人との仕事でトラブルを起こす
日本人の潜在的課題

～駐在者は知る、誰でもできる3つの改善～



ロジ 代表

小田 淳 P

日本人は、中国人や中国企業とのビジネスにおいてトラブルを起こしやすい、そのトラブルの原因が中国人の問題としてとらえます。しかしその多くは、実は日本人にトラブルの原因があったり、中国人の国民性が日本人と大きくかけ離れていることが原因になっています。「阿吽の呼吸」で仕事する日本人に対して「言われたこと」の仕事をする中国人、前例を重要視する日本人に対して現実を重要視する中国人、どれも相対することが多くあります。この講演では、中国駐在経験のエピソードをもとに、中国人もしくはそれ以外の外国人とトラブルなく仕事を進める方法をお伝えします。

[講師略歴]

ソニーで29年間にわたりプロジェクターなどを設計し、そのうち駐在を含み7年間は中国で部品を作製する。その作製過程で、不良品の発生する原因が、実は日本人に多くあることに気付く。この日本人の潜在的課題を、中国企業や中国人と関わって仕事をしている人に伝えたいと思い、講演や研修を行っている。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

A-14

百貨店のオムニチャネル化へのヒント

～バーチャル消化仕入による業界変革に向けた取り組み～


富士通株式会社
CPS&Retail事業本部 事業部長

近藤 仁 CFP® B

百貨店の長年の商習慣である消化仕入という取引形態が起因し、ECサイト拡充やオムニチャネル対応などが阻害されていると考えており、解決策の一つとして「バーチャル消化仕入」というモデルを研究している。百貨店と取引先企業が協働し、商品や在庫等の情報共有を行うことで、従来の業務に捉われない、新たな解決手法になり得ると考える。実現にあたっては、業務プロセス変革やメーカーと百貨店の管理コードの共有化、業界標準によるAPIプラットフォーム等が必要となる。協働関係に参加していただける企業様を募り、PoC等を通して社会実装へつなげる取り組みへと活動を広げていきたいと考える。

[講師略歴]

百貨店業界におけるICT適用に従事。企画構想から導入・運用までITライフサイクル全般をサポート。業界知見を活かし、大規模システムPMやクラウドサービス適用、アジャイルプロジェクトや新規ビジネス企画活動などをリード。また近年は、組織内のDX人材育成やエンゲージメント向上施策の取り組みにも注力。

[SS] 社会課題解決

A-15

デザイン×社会課題×女性の
エンパワーメント

～創造力とリーダーシップを育むヒント～


NPO法人ハナラボ
代表理事

角 めぐみ P

多くのデザイン研究者が、誰もがデザインする力を持っていると言います。でも、誰もがその力を発揮できているわけではありません。本講演では、デザインする力とは何か、どのような仕組みや働きかけによってデザインする力が引き出されるのかを解説します。具体例として紹介するのは、女子学生を対象とした、ソーシャルデザインプロジェクト(デザインアプローチによる社会の課題解決に挑むプロジェクト)です。彼女たちの変化を追いながら、創造力とリーダーシップを育むヒントをお伝えします。

[講師略歴]

「女子学生のリーダーシップと創造力を育む」ことをミッションに全国各地でソーシャルデザインプロジェクトを実践。女性が自らの意思で自由に選択・挑戦でき、社会をつくる主体として本来持つ力を発揮できる社会を目指して活動中。経産省キャリア教育アワード2017 奨励賞受賞(ハナラボ)/武蔵野美術大学 非常勤講師/東京工業大学博士後期課程在籍。

[IN] イノベーション

A-16

農業を通じて人を幸せにする

～マネジメントができる農業者を育てるために～


有限会社トップリバー
代表取締役

嶋崎 田鶴子 P

日本の農業を持続可能な農業にしていくためにやらなければいけないことは、匠の技ではなく、農作業を可視化し、担い手となる農業者の育成である。その手法として、農業情報のデジタル化が重要であると言われているが、IT技術者と農業界の通訳をする人材が少ないということに気付いている人が少ない。農業界の課題解決をIT技術でできると錯覚している人たちと、そもそも農業の課題解決にはITは必要でないと思っている人を繋げ、有限会社トップリバーで成功した事例を紹介する。そして、これからの農業界で求められる人材に育成について提案をする。

[講師略歴]

1959年 長野県御代田町生まれ 63才。1982年～ 新潟大学卒業後、時計メーカーの生産技術部門で生産管理及び新製品の開発を行う。1986年 結婚を機に退職。2000年～ 有限会社トップリバー設立とともに経理部門の担当として農業生産法人の経営管理を行う。2022年 夫の逝去に伴い有限会社トップリバーの代表取締役となる。

[SS] 社会課題解決

A-17

都市間連携でデータを共有する
スマートシティ

～デジタル田園都市国家構想をどう活用するか～


アーキテクトブランドデザイン株式会社
ファウンダー・チーフアーキテクト

豊崎 禎久 B

島根県益田市のスマートシティは、国土交通省先行モデル事業採択され民間主導自治体連携プロジェクトです。このスマートシティの特徴は課題解決型であることです。従来のスマートシティの多くは、アーバン型が対象であり、テクノロジー・オリエンテッドな取り組みがほとんどでした。このため、多くの取り組みが苦戦しているようです。日本政府は、地方からデジタルの実装を推進し、データ社会基盤を構築することで新たな産業変革の波を起こし、これによって地方と都市の差を縮めていくことで、世界と繋がるデジタル田園都市国家構想の実現に向けて大きく動き出します。

[講師略歴]

アーキテクトブランドデザイン株式会社ファウンダー兼チーフアーキテクト 豊崎 禎久。一般社団法人サイバースマートシティ創造協議会(MCSCC)代表理事。元慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 特別招聘教授。

[SS] 社会課題解決

A-18

アフリカ農村部井戸向け、プリペイド式
自動井戸料金回収システム

～なぜ未だに安全な水にアクセスできない多くの人がアフリカに残っているのか?どう解決するのか?～


株式会社Sunda Technology Global
代表取締役CEO

坪井 彩 B

アフリカの農村部では、安全な水を得る手段としてハンドポンプ井戸が広く使われている。アフリカには約70万基のハンドポンプ井戸が存在すると言われているが、維持管理に必要な料金が回収できず、修理されずに放置されている井戸が多く存在している。私たちは、ハンドポンプ井戸に従量課金型の自動井戸料金回収システム「SUNDA」を設置することで、公平性と透明性を担保したハンドポンプ井戸の維持管理を可能にした。これまで150基のSUNDAをウガンダに導入し、5万人以上の村の住民が継続的に安全な水を得られるようになった。

[講師略歴]

株式会社Sunda Technology Global代表取締役CEO。京都大学大学院卒業後、2013年にパナソニックに入社後、IT部門にてデータ分析コンサルタントとしてBtoC、BtoB様々な事業に関わる。2017年にパナソニック社内で参加した途上国を題材にしたワークショップに参加したことがきっかけで、「アフリカ社会課題Xビジネス」に興味を持った。具体的なビジネスアイデアを見つけないかと思い、2018年にJICA海外協力隊としてウガンダの「現場」にて1年間活動。活動を通して、ウガンダ農村部の水問題に触れ、現地住民とともにソリューションである「SUNDA」を考案。パナソニックを退職し、株式会社Sunda Technology Globalを立ち上げる。

[SS] 社会課題解決

A-19

【企業×NPO 連携の好事例】 ブックサンタとは？

～本好き必見！あなたも誰かのサンタクロース～



NPO法人チャリティーサンタ
代表理事

清輔 夏輝 B

本講演は、企業×NPOが連携する好事例として知られる「ブックサンタ」についての事例発表です。ブックサンタは「厳しい境遇にいる全国の子どもたちに本を届けること」を目的に2017年スタート。NPO法人チャリティーサンタが主催し、全国の約1,000店舗の書店が参加し、拡大中のプロジェクト(2023年時点)。パートナー書店で子どもたちに贈りたい本を購入、レジでその本を寄付すると、全国の子どもたちに「サンタクロースから本が届く」というチャリティプログラムです。この取組の成り立ち、拡大の背景をプロジェクトマネジメントの観点から探っていきます。

【講師略歴】

国立有明高専卒。建築設計事務所、ITフリーランス、株式会社サイバーエージェントを経て、2014年より現職。福岡県出身。
6歳のクリスマスにサンタさんから直接プレゼントをもらったことが原体験。ヒッチハイクで日本3周。旅で出会った僧侶から「恩送り」という価値観を学び2008年にNPO活動開始。

[SS] 社会課題解決

A-20

NPO・株式会社の連携による 社会課題解決手法

～母子向け居住支援の取り組み～



NPO法人LiveQuality HUB代表理事
千年建設株式会社 代表取締役社長

岡本 拓也 B

母子世帯の貧困率がOECD諸国の中でも最下位となっており、中でも特に住まいに悩んでいる。しかし、不動産価格の高騰や公営住宅の老朽化により市場の供給が追いつかず、この問題は株式会社だけでも行政だけでも解決できない課題だ。LiveQualityでは、株式会社とNPOのハイブリッドで、50以上の連携団体と協力してこの課題に取り組んでいる。本講演では、LiveQualityの事業として社会課題解決を行うソーシャルスタートアップの事業の作り方、連携の生み出し方について、実際の経験をもとにお伝えする。

【講師略歴】

公認会計士としてPwCで企業再生アドバイザリー業務に従事。認定NPO法人カタリバの常務理事兼事務局長に就任し、第二創業を推進。父の急逝を機に千年建設を事業承継。コロナ禍に生活困窮者向け住まい提供サービス「LiveQuality」を立ち上げ、社会課題解決に取り組む。PwC財団、日本NPOセンター理事他。

[SS] 社会課題解決

A-21

宇宙ミッションを取り込んだ 「東北復興宇宙プロジェクト」

～一般市民が参加するユニークな宇宙事業～



一般財団法人ワンアース
代表理事

長谷川 洋一 CFP® B

一般財団法人ワンアースは、津波到達点以高の場所に、千年生きて超巨大化する遺伝特性を持つ「宇宙桜」を植え、風化しない避難の目印として大災害の記憶と教訓を伝承する「さばうの桜」計画を推進しています。これが端緒となり被災地の皆さんの気運が高まった結果、2021年3月に復興10年を期して世界への感謝の気持ちを宇宙から発信する「東北復興宇宙ミッション」に発展しました。本講演では、宇宙を使った復興・地域おこしという前例のないプロジェクトの事例、そして縁故のない地域とのコミュニケーションなど困難を乗り越えていったプロセスを、具体的なエピソードを交えてお話しします。

【講師略歴】

1991-2015 有人宇宙システム(株)(2004-6はJAXA)国際宇宙ステーションの実験計画立案、国際調整に関わる。
2015-現在 一般財団法人ワンアース代表理事:東日本震災復興に関わり「さばうの桜」「東北復興宇宙ミッション2021」などをプロデュース、第8回JACEイベントアワード優秀賞受賞。

[SH] その他人文科学分野

A-22

あなたの経験が社会を変える

～JICA×芸人×Jリーグ通訳 デュアルキャリアが動かすプロジェクト～



JICAデスク佐賀
国際協力推進員

石川 洸 P

転職や副業、デュアルキャリアが当たり前になっている今の時代。JICAと芸人やJリーグ通訳など一見国際協力と無関係に見えるキャリアが繋がって新しい価値を作っていく。今後一層色濃くなる多文化共生社会の日本において、我々には何が求められ、外国人をどのようにサポートしていけばよいのか。本講演では日本語を学習する外国人向けに行っている「漫才で覚える日本語」シリーズやサッカーJ1サガン鳥栖の全面協力を得て開催した佐賀県在住の外国人対象のサッカー大会Sagan World Cup等の事例紹介を通し、社会課題解決に向けたキャリアや経験の活かし方をお伝えする。

【講師略歴】

新卒で入社したリコージャパン(株)を退職後、2013年に青年海外協力隊としてセネガル共和国に派遣。任期満了後再渡航し、カゴメセネガル立ち上げに従事。5年間のセネガル生活を経て、2019年に帰国。その後、NSC大阪を経て吉本興業所属の芸人に。芸人と並行し2021年にはサガン鳥栖の英語通訳となり、2022年3月より現職。

[IN] イノベーション

A-23

ゲノム医療を支援する説明可能AIを 目指して

～医療向けAI技術開発で求められること～



富士通株式会社
コンピューティング研究所 シニアリサーチマネージャー

富士 秀 W

がん組織の遺伝子変異を解析した上で最適な治療を行う「がんゲノム医療」は、一人ひとりのがんの遺伝子変異に応じたオーダーメイド医療を実現できることから、「夢のがん医療」と期待が寄せられている。現在、ゲノム医療の現場では、患者の遺伝子変異を解釈して治療につなげるための調査作業に大きな労力が割かれており、我々はこの作業を支援するための説明可能AIを開発してきた。開発には、AI技術の開発のみならず、現場課題を的確に把握して開発にフィードバックし、検証を行いながら最適化していく必要がある。本講演では、医療向けAI技術開発において発生する一連のステップと課題について述べる。

【講師略歴】

1987年 英国王立ロンドン大学キングズ校工学部卒。1988年(株)富士通研究所入社。多言語機械翻訳、自然言語処理の研究に従事。2014年～情報通信研究機構(NICT)専門研究員。2017年～富士通研究所でゲノムAI研究。現在、富士通研究所コンピューティング研究所シニアリサーチマネージャー。言語処理学会理事。博士(工学)。

P2M資格体系		
略称	資格名称	到達能力水準
PMR	プログラムマネジャー ・レジスタード (Program Manager Registered)	プログラムマネジャーとしてプログラムミ ッションを達成するための十分な実践力とし ての実務遂行能力、判断力、対人折衝能 力などのコンピテンスおよび経験を有するこ と (プログラム・プロジェクトマネジャーに必要な P2M実践力を保有)
PMS	プロジェクトマネジメント ・スペシャリスト (Project Management Specialist)	プロジェクトを実際に遂行するプロフェッ ショナルとしての知識全般を有すること (プログラムマネジメントを含むP2M全般知 識を修得)
PMC	プロジェクトマネジメント ・コーディネータ (Project Management Coordinator)	プロジェクトの各マネジャーの下でプロジェ クトの一端として実務遂行できる基礎知 識能力を有する (P2Mにおけるプロジェクトマネジメントのコア 知識を修得)
PMCe	プロジェクトマネジメント ・コーディネータ・エントリー (Project Management Coordinator - Entry)	※PMCの受験資格 PMAJ発行の「プロジェクトの概念」を学 習し、単位を修得 (但し学生に限る)

詳しくはホームページをご覧ください。

特別講演 **SP-21** 日本の複雑さはマネージメント責任か
～ヒット商品分解から海外と日本の差を明らかにする～

11:15～12:15

株式会社テカナリエ 代表取締役CEO

清水 洋治 **B**

今後のAIやロボティクスなどの根幹を成す半導体やシステムの開発から使い方で日本と海外に大きな差がある。経営、マネージメント、エンジニアリング、セールスなど各レイヤーの問題が実製品の分解からも明らかになる。2022-23年のヒット商品、大型商品の分解から見えるシステムの差、考え方の差などを明確化し、マネージメントの重要性を浮彫にする。とくに最新のGoogleやApple、SPACE-X、中国製品の

中身と日本製品を比較し差を明確にする。シンプルを常に求めることがマネージメントの役割という考え方を提唱したい。

【講師略歴】

30年におよぶ半導体開発経験(国内、米国)を経て2016年から年間100製品以上の分解を通じてシステムや市場、技術動向を解析するテカナリエCEO。大手企業のコンサルティングや各所でのセミナーなどを行っている。素人からガチプロまで対象にEETimesの連載やテカナリエレポートの発行などを行っている。

特別講演 **SP-22** プログラム&プロジェクトマネジメント(P2M)
～価値創造の源泉と医薬品研究開発における活用事例～

13:00～14:00

大阪大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授

岩崎 幸司 **W**

不確実性が高く、多義性に富み、拡張性及び複雑性を併せ持つ医薬品の研究開発を効率的にマネジメントするためには、価値を創造するために全体を俯瞰して戦略を立案するP2Mのプログラムマネジメントの手法が有効である。プログラムマネージャーには、価値評価のマネジメントにより、プログラム立案時に創造すべき価値を適切に評価し、価値を創出するための戦略をミッションプロファイリングの手法を用いて立案するとともに、プログラム実行中の環境等の変化に応じてタイムリーに価値を評価し、

成果物を産み出すプロジェクト群をこれまでに用いられている予測型のみならず必要に応じてアダプティブな手法を用いて有機的に統合しながらプログラムを推進することが求められる。本講演では、アカデミアにおける医薬品の研究開発の事例を示しながら、価値創造の源泉、プログラム統合マネジメント及びプログラム価値評価のマネジメントについて解説する。

【講師略歴】

武田薬品(株)にて臨床開発(治験計画・実施、薬事申請)に従事。臨床開発、データマネジメント、メディカル部門等の責任者を経て、2017年より現職。臨床研究プログラムをマネジメントするとともに若手医師に対して臨床研究プロトコルの作成を指導。P2Mガイドブック第3版2部4章価値評価のマネジメントを執筆。PMS、博士(薬学)。

特別講演 **SP-23** 宇宙ミッションにおけるプロジェクトマネジメント成功の秘訣

14:15～15:15

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授

久保田 孝 **W**

JAXAでは、地球周回、深宇宙探査などさまざまなミッションを推進している。宇宙の謎を解明するために、ロケットで衛星や探査機を打ち上げて、さまざまな天体を訪れている。本セミナーでは、小惑星探査機「はやぶさ2」を通じて得られた、人工知能をはじめとする日本の最先端技術について概説するとともに、挑戦的なミッションを遂行するにあたってどのようにプロジェクトを進めればよいのか、信頼性の確保の方法

やリスクをどのように想定し対処するか、困難を乗り越えるために必要なプロジェクトのマネジメントについてお話を。特に、JAXAが進めているプロジェクト推進の秘訣を紹介する。

【講師略歴】

1993年文部省宇宙科学研究所入所、現在、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授、東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻教授併任。M-Vロケット姿勢制御担当、小惑星探査「はやぶさ2」航法誘導担当、「はやぶさ2」スポークスパーソンなど。専門は、宇宙ロボティクス・人工知能、プロジェクトマネジメントなど。

特別講演 **SP-24** Downstreamから学ぶDX

15:30～16:30

公立大学法人宮城大学 教授／事業構想学群長 兼 事業構想学研究科長

中田 千彦 **W**

DXの目指すところは「新たな価値」の創出である。たとえ中小企業のように資金やリソースが限られている組織であっても、DXおよびそのための「学び」は、「新たな価値」の創出に結びつくものでなければならない。多くの「学び」は基本から応用、理論から実践という順序で構成されることが一般的である。しかし、「動機付け」や学びの「意義」を持ちにくい社会人のリスクリングでは、こうした「学び」は実践と結びつきに

くい。本講演では、東北という中小企業が多い地域性を踏まえながら、求められるリカレント教育や将来像について、最新の実践例を踏まえながら、解説していく。

【講師略歴】

住宅設計やインテリアデザイン、地域産業のための施設、アートのための空間デザインなどを行いつつ、出版や編集のメディアデザイン、さらには学生との共同作業によって東日本大震災以降の地域デザインについて考え、新しい時代の地域づくり、空間設計をどのように考えるのか、地域社会にふさわしい環境デザインは何かを研究、実践しています。

特別講演 **SP-25** 日立グループの成長戦略実行に向けた人財育成
～自律的に学び続ける人財を育てるには～

16:45～17:45

株式会社日立アカデミー 統括主監

鳥居 和功 **P**

技術の急速な進歩に加え、地球温暖化、パンデミック、地政学リスクの高まりなど不確実性が増大している。このような背景のもと、日立は、「社会イノベーション事業を通じて、持続可能な社会を実現する」をビジョンとして掲げ、「デジタル」「グリーン」「イノベーション」の3つをドライバーとして、社会イノベーション事業でグローバルに成長することをめざしており、モノ売りからサブスクリプション型、サービ

ス型、循環型のビジネスモデルへのシフトも進めている。本講演では、社会やお客さまの課題を探索し、これまでになかった新しいソリューションをお客さまと協創していく社会イノベーションリーダー、DXリーダーの育成施策や、この変化の激しい時代を生き残るために全ての従業員に求められるリスクリング、自律的なキャリア形成に向けた学びを支援する取り組みなどを紹介する。

【講師略歴】

日立製作所中央研究所にて先端半導体デバイス・プロセスのR&D、エレクトロニクス分野R&Dのマネジメントに25年間、従事。その後、日立ヨーロッパ社CTOとして英国に5年間駐在。帰国後、オープンイノベーション推進室長として日立のCVCを設立。2020年に日立アカデミー取締役役に就任。本年4月より現職。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-1

上流工程から参画による 運用最適化へのアプローチ

～運用実績反映による品質向上の取り組み～



株式会社富士通エフサス
サービスビジネス本部 東日本第二サービス事業部

遠藤 貴芳

現在のITインフラは、PC、サーバ、ネットワークといった機器を所有する形に加え、クラウドと言われるITインフラをサービスとして利用する形態も増えており、より多様化し複雑化している。そのため、多くの企業ではITインフラの運用管理を自社のみで行うことは難しく、外部委託が一般的である。運用の現場では、運用に関する情報共有が円滑に行われず、運用開始後に様々なトラブルが発生し運用品質が上がらないことが散見される。本講演では、運用に関する情報共有を円滑に行うためのシステム運用実績適用プロセスの追加と運用必要作業リストの整備により運用品質を向上させる施策について紹介する。

[講師略歴]

1975年埼玉県生まれ。電気通信大学卒業。1999年入社。サーバ1台のシステムから仮想サーバ1000台規模のシステムまで、一貫してITインフラ構築を担当。運用に転向し、大規模サーバ運用およびヘルプデスク業務のPMとして従事しながらも、途中育休を1年取得し現職に復職する。PMP/ITコーディネータ/情報処理安全確保支援士。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-2

データドリブンなソフトウェア 開発プロジェクトマネジメント

～プロジェクトマネージャ、PMOを支援するAI技術～



株式会社日立製作所
研究開発グループ DXエンジニアリング研究部

川上 真澄

企業がDXを実現するために、ソフトウェア開発能力の継続的な改善を行うことは、競争力に直結する。多数の開発プロジェクトが並行して実行される場合、個々の開発プロジェクトの成否のみならず、混乱しはじめたプロジェクトを早期に発見し対策を実施することが、組織全体のロスコスト増大を抑制するために重要な取組みとなる。本発表では、このようなソフトウェア開発プロジェクト群のマネジメントをデータドリブンに行うAI技術について紹介する。

[講師略歴]

1998年豊橋技術科学大学大学院工学研究科修士課程修了。同年株式会社日立製作所入社。現在、研究開発グループDXエンジニアリング研究部部長。現在、ソフトウェア工学研究と製品開発適用に従事。IEEE Computer Society、情報処理学会、プロジェクトマネジメント学会各会員。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-3

PETRONAS Floating LNG 2 Project

～深海域中小ガス田開発プロジェクトの課題克服～



日揮グローバル株式会社
エネルギーソリューションズプロジェクトマネジメント本部 ジェネラルマネージャー 小澤 智樹

ペトロナス社は、陸上LNGプラントでは費用対効果、技術の両面で開発が困難とされている水深1,000m以上の深海域の中小規模のガス田開発にLNG FPSO (Petronas Floating LNG 2 : PFLNG2) の採用を決定した。当該Petronas Floating LNG 2プロジェクトが2021年にLNGの商業生産を開始するに至ったため、プロジェクトの概要と課題克服の経緯等を紹介する。加えて、弊社におけるFloating LNG案件の取り組み実績と現状を紹介する。

[講師略歴]

1991年4月に日揮(株)に入社。2014年～2021年にかけてPetronas Floating LNG 2プロジェクトのプロジェクトマネージャー、プロジェクトディレクターを歴任。現職は日揮グローバル(株)エネルギーソリューションズ プロジェクトマネジメント本部 ジェネラルマネージャー兼オフショア・モジュールグループマネージャー。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-4

NASAのISSプログラムマネジメント

～「きぼう」の開発で経験したプログラムマネジメント～



PMAJ会員活動 PMマイスター

長谷川 義幸

1985年に開始されたISSプログラムは、2003年までの黎明期では、財政赤字やロシアを途中で参画させる政治的な判断もあり、試行錯誤を行いながら組織形態や意思決定方法などの運営方法を変化させていった。ISSプログラムは当初からマネジメントの挑戦だと言われていたが、米国政府にとっても世界15か国が参加する超大型プログラムを推進していくのに試行錯誤していた。NASAといえど経験のない巨大なプログラムでは豊かな経験のあるマネジャーを投入しないとうまくいかなかった。この講演では、筆者が経験したISSプログラムマネジメントについて、エピソードを交えてお話しします。

[講師略歴]

1976年宇宙開発事業団(現JAXA)に入社、1986年から2015年まで、「きぼう」日本実験棟7の開発と運用・利用に従事。プロジェクトマネジャーとして打ち上げ・宇宙での組み立て、運用を成功に導いた。ISSプログラムマネジャー、執行役、理事を歴任し退職。2017年、国際核融合施設(ITER)の国際運営表委員、現在PMAJ会員。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-5

身近な宇宙開発を目指して

～JAXA有人宇宙活動における最新状況～



宇宙航空研究開発機構(JAXA)
有人宇宙技術センター ゲートウェイ居住棟プロジェクトチーム 主任研究開発員 勝田 真登

宇宙開発におけるプロジェクトは、従来ウォーターフォール型の手法を用いて管理を行うことが多い。開発に臨む企業もいわゆる宇宙開発分野において経験を持ち、リスクや開発工程などに共通の認識を持つ企業が多かった。一方で近年、これまで宇宙開発の経験がないような民間企業の参入が次第に増えており、JAXA側も宇宙開発をより持続可能な活動(コスト対効果を意識して短い開発サイクルで実現)とするために、民生機器等の積極的な活用に基づく柔軟な開発体制に対応することを検討している。このような検討実践の一例として光衛星間通信システム(LICS)開発を紹介する。

[講師略歴]

2011年JAXAに入社し、国際宇宙ステーション(ISS)での実験装置開発や国際間の実験計画調整に従事。2017年から文部科学省に出向し、第2回国際宇宙探査フォーラム(ISEF2)開催等を担当。2019年以降はJAXA有人宇宙技術センターでISSや、月周回有人拠点(Gateway)の搭載機器開発、月面有人と圧ローバの技術検討を実施中。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-6

DX時代における製造部門の役割と 人材育成

～設計製造リンク&ループと経験学習モデル～



株式会社RDPI
代表

石橋 良造

DXが中長期事業目標の一つとなっているにもかかわらず、製造業においては未だDXが期待通りには進んでいないという課題がある。製造業DXを実現するためには、品質・コスト・納期を直接担う製造部門が主導して、その基盤となる設計・製造リンク&ループを構想、実装することがカギとなる。本講演では、このリンク&ループ構想を具体的な実例を交えて紹介する。また、DXに必要なスキル獲得も課題となっているため、そのための人材育成の基盤となる経験学習モデルの導入方法やその効果についても解説する。製造業DXの基盤となるリンク&ループを構想し、必要となる人材育成を行うための知見を提供する。

[講師略歴]

日本ヒューレット・パッカで半導体計測システムの開発に従事した後、HP全社にわたる統合システム開発と開発業務改革を手がけ、日科技連石川賞を受賞。その後、コンサルティング会社RDPI社を設立し、心理学やコーチングを活用した開発の仕組みと個人の意欲の両面に働きかけるコンサルティングに取り組んでいる。

[PM] プロジェクトマネジメント実践

B-7

DX時代におけるプロジェクト課題の傾向と対策におけるポイント

～炎上プロジェクトの傾向と対策の提言～



株式会社SHIFT

サービス&テクノロジー本部 デジタルサービス統括部 コンサルティング部 部長 山崎 陽一  

経産省が発表した「デジタルガバナンス・コード」により、事業会社各社はあらゆる要素のデジタル化に向けて、ビジネスモデルの抜本的な変革(DX:デジタルトランスフォーメーション)を目指している。新たな成長を実現する企業が現れてきている背景には、事業施策が不可欠であり、プロジェクトを実現手段として実施しているが、あらゆる要素で成功しているプロジェクトは決して多くない。弊社で多くのプロジェクトを支援してきているなかで、傾向分析結果と対策のポイントをご紹介します。是非、今後のプロジェクト管理に活かしてプロジェクト成功に向けご活用頂きたい。

【講師略歴】

大手SIerで地方銀行共同化プロジェクトのSEとして経験を積んだ後、プロジェクトPM、レスキューPMを経験、大手証券会社、大手損保会社にて大規模プロジェクトを担当。現在、株式会社SHIFTコンサルティング部部長として、お客様に対しSHIFTならではの価値提供を実践中。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-8

PMBOK® 第7版12の原理・原則を事例で伝える『ものがたり』

～活動状況と試作品の紹介～



PMAJ会員活動

PMノウハウ継承研究会SIG

吉野 均/廣瀬 守克/新谷 幸弘 

ICT関連プロジェクトの成功率は低く、同じような失敗を繰り返している。その根本原因の一つは、現場の卓越した人材(匠のPM)が持つ実践的なPMノウハウが組織の知とならず、その人材と共に消えていくからではないか、と考える。当研究会は、その現状を変えるため、富士通株式会社から限定公開された、匠のPMの知恵を継承する『ものがたり』を研究し、より幅広い業界で通用する『匠のPM』の知恵を伝える公開可能なアウトプットを作る事を目的に活動している。当講演では、研究会の一年の活動状況と、その活動から生まれた『PMBOK® 第7版12の原理・原則を事例で伝える物語』の試作品をご紹介します。

【講師略歴】

吉野 均:物語りラボ代表 ナレッジハンター。富士通株式会社でITプロジェクトを様々な立場で経験後、『ものがたり』作りを実践した。/廣瀬 守克:富士通株式会社を定年退職後、株式会社ウチダ人材開発センターの技術顧問として再就職。現在、IPA出向中。/新谷 幸弘:千葉工業大学教授(技術経営・イノベーション研究室主宰)。3M、横河電機等で研究開発牽引の実務経験。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-9

PRINCE2の「プロジェクトの指揮」

～プロジェクト委員会による利害調整とコントロール～



PMAJ会員活動 PM研究・研修部会

木下 雅治/尾形 順一 

英国政府が開発したPRINCE2は、プロジェクトを3階層(プロジェクト委員会が対応する「指揮」、プロジェクトマネージャーが対応する「マネジメント」、チームマネージャーが対応する「提供」)に分けてコントロールする点に特徴がある。本講演ではPRINCE2の「プロジェクトの指揮」の特徴やプロセスを紹介する。プロジェクト委員会はビジネス、ユーザー、サプライヤの代表者から構成され利害調整機能を担い、プロジェクトの立上げ、計画、終結など重要局面の意思決定を行う。この「プロジェクトの指揮」は「VUCA」と言われる時代の未来、次世代のプロジェクトマネジメントに有益な視座を提供するだろう。

【講師略歴】

木下 雅治:PMAJ PM研究・研修部会会員。損害保険ジャパンおよびSOMPOシステムズでシステム企画、運用、プロジェクト、業務改革推進業務などに従事。PRINCE2® Practitioner, ITIL® Expert, PMP®, 修士。/尾形 順一:PMAJ PM研究・研修部会会員。DXコンサルティングファーム Ridgelinez所属、プログラムマネジメント及びアジャイルシフトの専門家。PRINCE2® Practitioner, PMS, PMP®, 上級CSPO, 上級CSM, LSM, SAFe®Agilist。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-10

PMBOK® ガイド 第7版概要解説

～Outline of PMBOK® Guide Seventh Edition.～



PMAJ会員活動 PM研究・研修部会

大泉 洋一 

2021年7月にPMBOK®ガイド 第7版が米国PMI本部より発行された。全世界でPMP®資格取得者は110万人を超えている。PMBOK®ガイドは、プロジェクトマネジメントの知識体系・フレームワークとして事実上のグローバルスタンダードとなっている。また、2022年10月にPMI®よりProcess Groups: A Practice Guideが発行された。この実践ガイドは、原理・原則ベースのプロジェクトマネジメント知識体系ガイドであるPMBOK®ガイド 第7版の補足情報を提供するものと位置付けられている。第6版から大幅に変更されたPMBOK®ガイド 第7版の特徴を、Process Groups: A Practice Guideとの関連性を含め解説する。

【講師略歴】

㈱日本総合研究所(当時)に入社後、国の医療費分析等に従事。その後、厚生労働省の外郭団体である政策研究機関に研究員として出向。帰任後(後に会社分割により現社)ITコンサルタントとして活動し、2019年よりDXコンサルタントとして企業のDX推進に従事。PMAJ PM研究・研修部会員、部会講師。PMI®認定 PMP®。

[PS] プロジェクトマネジメント・スキル強化

B-11

今までの常識を打破する新たなマネジメントとは

～ゆとりを創り未来を切り拓くマネジメント～

株式会社Goldratt Japan
Viable Vision Expert服部 雅臣  

高度化、複雑化したPJで、個々の責任を果たそうと一生懸命頑張るものの、なぜか終盤で大混乱に陥る。品質と納期を守るには、「関連する組織やチームの仕事を論理的に繋げ、先手で行う」マネジメントが必要である。もはや「WBSガントチャート」の管理ではPJの不確実性を担保することには限界がある。厳しいPJを成功に導くには、「問題が発覚してから遅れを取り戻す」マネジメントではなく、「問題を見える化し早期に吸い上げ手を打つ」マネジメントが必須である。これまで長年培ったマネジメントの常識を捨て、新たな常識を打立てる事が、低迷する日本の飛躍に繋がると信じる。その極意を紹介する。

【講師略歴】

1981年 富士通入社(金融システム部門配属)…都銀、地銀の大規模開発のPMを歴任。2012年「IT分野のためのP2Mハンドブック」出版(日本能率協会より)。2013年 PMR資格認定取得。2014年 富士通ミッションクリティカルシステムズTOC推進室立上げ。2015年 PM学会「PM実施賞」受賞。2017年 株式会社Goldratt Japan入社。

[BS] 戦略及びビジネスマネジメント

B-12

人と組織を元気にする「やわらかデザイン」

～社内SNSとデザイン思考で企業文化を変える～

富士通株式会社
デザインセンター ワークショップデザイナー加藤 正義 

日本企業の多くは、DXやイノベーションを妨げる企業文化の変革が大きな課題であり、組織間や社外との交流が不足しているのがその原因の一つである。我々は、社内SNSを活用し、企業のオープンなコラボレーションを推進するための「学習と実践のコミュニティ」づくりに挑戦した。オンラインワークショップの手法やデザイン思考を活用して試行錯誤した結果、組織の枠を超えた社員3,000人超が参加するコミュニティを実現し、楽しみながら企業文化を変えてつづける。コミュニティ内では、社員同士が気軽に知識やアイデアを投稿したり助け合うだけでなく、挑戦や成長を応援し合う文化も広がっている。

【講師略歴】

新卒で富士通株式会社に入社後、開発部門、コーポレート部門を経てエンジニアからデザイナーへ転身。ワークショップデザイナーとして、対話による創造的な場づくりを10年以上経験。近年は、企業内の組織横断オンライン・コミュニティづくりに挑戦するなど、頭と組織を楽しくクリエイティブにする方法を日々研究・実践中。

【BS】戦略及びビジネスマネジメント

B-13

プラントエンジニアリングにおける 自動設計機能を備えた次世代型 CADシステム「PlantStream®」



株式会社PlantStream
代表取締役CEO

愛徳 誓太郎 B

プラントエンジニアリング業界は、近年の工期短縮や安全要求の高まりにより、コンカレントな設計業務フローでも対応しきれず、スケジュール遅延やコストオーバーランが多発する事態になっている。PlantStream®は「直感的な操作で誰でも簡単に3Dモデルを作成できるツール」をコンセプトに、基本設計フェーズの3D設計精度を向上させることによって、プロジェクト全体の工期短縮と予算からの上振れ抑制を目指している。将来的には、設計効率化ツールの域を大きく超え、プラントエンジニアリングを労働集約的な設計手法からデジタル技術を駆使した新設計手法へと抜本的に変革する可能性を秘めている。

【講師略歴】

信州大学工学系研究科卒業、2004年千代田化工建設株式会社 配管設計部に配属。海外大型LNGプロジェクトの設備配置、配管設計を担当。2018年から空間自動設計システム開発タスクリーダーを経て、2020年に株式会社PlantStream代表取締役CEOに就任。

【HR】人財育成・働き方改革

B-14

関係人口のプロジェクトマネジメント ～関係人口と地域の共存共栄～



一般社団法人Work Design Lab
パートナー

伊藤 紗恵 B

観光以上移住未満で地域と関わる『関係人口』という言葉が定着してきた。各自治体や民間企業、あるいは官民共同で『関係人口』に注目した様々な取り組みが行われているなか、「地域外(主に首都圏)から地域へ関わる関係人口側」と「関係人口を受け入れる地域側」でのそれぞれのニーズを踏まえたプロジェクトマネジメントが重要となっている。

関係人口のプロジェクトマネジメントで必要とされること、関係人口の入口と出口、関係人口プロジェクトの成功の鍵は何か?そもそも関係人口は誰のための何なのか、を実例を踏まえてこれからの地域の発展について考えていく。

【講師略歴】

大手損保会社へ新卒入社し、人事を中心に経験。その後HRTech事業のカスタマーサクスマーサクセス、スタートアップスタジオのコミュニティマネージャー等を経験。ビジネスカンファレンスの企画・運営、人材育成プログラムのメンター、石川県能登半島を中心に地方創生プロジェクトの活動など。女性のキャリアについてもテーマ。

【HR】人財育成・働き方改革

B-15

メンバーが主体的に考え動く 愛に溢れたチームの創り方



DelSole株式会社
代表取締役

上林 恵 P

東京・銀座の夜の街に、メンバー1人1人が自らの意志で考え動く、ユニークなスナック(飲食店)がある。この店のメンバーは、お金のためではなく人生の楽しみのために、喜んでここで働いているのだ。元リクルートのトップ営業であり、現在コーチとしても活躍しているスナックオーナーが、フラットでwin-winな人間関係の築き方、そしてあたたかく愛に溢れたチームの創り方について事例を交えながら解説する。

【講師略歴】

2009年京都大学教育学部卒。リクルートやスタートアップを経て独立。コロナ禍の2020年に銀座でシェアスナックデルソールをオープンし、20名の女性共同オーナー達と共に共同運営している。経営者/コミュニティマネージャー/コーチ/スナックママ/小学生ママという5つの肩書きで独自の心地良い生き方・働き方を探求している。

【HR】人財育成・働き方改革

B-16

個と組織をどう考える ～キャリアコンサルタントの視点から～



BIPROGY株式会社
ビジネスサービス推進部 推進一部

三宅 ひろみ CFP® P

Afterコロナ、Withコロナの社会環境は、私たちの仕事のやり方や、職業、働く環境を大きく変えていくように感じています。また私たちの職場から、若い優秀な人材が辞めていくことがあります。そして今、人材戦略が大きく変わりつつあります。ここでは、

- ・経済産業省 伊藤レポート、2022年12月に公開されたデジタルスキル標準等における人材戦略
- ・キャリアコンサルタントの視点から個と組織について考察したこと
- ・中部PM研究部会の活動において、個別最適と魅力ある職場づくりについて研究会メンバーで考察したこと

を紹介し、個と組織について考え方を整理できることを目指します。

【講師略歴】

IT企業に約40年勤務。主に官公庁、自治体、大学法人等の各種業務システムの構築や業務パッケージ主管に従事。ITコーディネータ/PM/ISO9001内部監査人/PM研修講師。働き方改革、女性活躍推進に取り組み、国家資格キャリアコンサルタント/GCDF-Japanキャリアアカウンタ取得。

【SS】社会課題解決

B-17

中小企業のDXとは? ～今こそ取り組もう! デジタル化5つの大原則～



DX学校 校長/株式会社ディグナ 代表取締役

梅崎 健理 B

DXとは、ITを使って変化を起こし、売上や利益を伸ばすしくみを作ることである。しかし、多くの中小企業はDXの前段階としての社内のデジタル化が進んでいない。インボイス制度・電子帳簿保存法改正に対応するためデジタル化は急務であるが、せっかくなら、ただ対応するだけでなく効果的なIT導入によって社内の生産性を上げ、DXの成功に向けて準備をしたい。数多くの中小企業のIT導入を後押ししてきた経験から得た教訓、デジタル化を進めるときにどの企業にも共通して起こる問題、その解決のために守らなければならないデジタル化5つの大原則について、デジタルやITが苦手な方にもわかりやすく解説する。

【講師略歴】

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 研究員(非常勤)。鹿児島県生まれ。慶應義塾大学 総合政策学部 卒業。2010年12月1日、高校在学中にディグナを設立。同日に「～なう(SNSで今何をしているかを表す言葉)」で「新語・流行語大賞」トップ10受賞。中小企業の経営課題を解決するIT活用セミナー等多数。

【SS】社会課題解決

B-18

未来を創る住民主体の地域づくり ～地域の母親達が生み出すエンパワーメントと循環～



特定非営利活動法人やっぺす
共同代表理事

高橋 洋祐 P

東日本大震災直後から活動を展開してきた、特定非営利活動法人やっぺす(石巻の方と一緒にやりましょう!)の意(変更前名称:石巻復興支援ネットワーク)。「地域の復興は誰かに任せるのではなく、私達自身の手で実現する」として、地域の母親が中心となり、地域課題に取り組んできた。地域課題にアプローチを続けるやっぺすの活動が生み出したエンパワーメントと地域の循環についてお話しさせていただきます。

【講師略歴】

2018年に特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク(現:やっぺす)入職。2022年3月より共同代表理事に就任。宮城県石巻市を中心に、「私らしく生きるが叶えられるまち」を目指し、女性活躍推進・子育て支援を中心に活動中。現在は、女性相談窓口、民間シェルの運営も開始し、女性のサポートに力を入れている。

【SS】社会課題解決

B-19

青森ねぶた史上初！
再生可能エネルギーによる
「ねぶた」点灯への挑戦株式会社日立製作所
東北支社青森支店 支店長川内 英明 **B**

東北の夏を燃え上げさせる青森ねぶた祭。50年以上にわたって祭に参加している日立は、2022年に太陽光由来のエネルギーで点灯するねぶたで出陣。これは、長い歴史を持つ青森ねぶた祭で初めての取り組みである。ねぶたに必要なLED約2,000個を2時間半点灯するのに必要な総電力量約25KWを確保する為に、スタートアップ企業とタイアップして試行錯誤する事で実現した。本講演では、再生可能エネルギーに挑戦した経緯や想い、スタートアップ企業とプロジェクトを進める上で学んだ事、新しい事へ挑戦する上でのリスクマネジメント、再生可能エネルギーによるCO₂削減以外のメリットについて紹介する。

【講師略歴】

2004年、日立製作所へ入社。東北支社(仙台市)にて金融機関向けシステム営業に従事。2011年、秋田支店へ異動。2016年、青森支店へ異動。2021年、青森支店長就任。また、日立連合ねぶた委員会会長として、日立ねぶたの団体責任者となる。

【SS】社会課題解決

B-20

地方行政DX最前線
で先駆者として躍動！
～行政職員×民間企業人材
双方方向リスクリング～

富士通Japan株式会社

パブリック&ヘルスケア事業本部クロスインダストリー事業部 田中 由加/中川 裕/由比 良雄 **P**

当社では、民間からの越境人材が自治体のDX推進に資すると考え取り組んでいる。取組開始から2年を経過した今、現場で起きているグッドサイクル事例をご紹介します。

- ①これまでの実績と、社内外に向けた取組のご紹介
- ②【新潟県佐渡市】DX推進計画策定にあたり、デザイン思考をベースとしたビジョンマップの作成等を行ってきた。地方公共団体におけるDX推進のための組織体制や変革マインド醸成の必要性に関する気づきをご紹介します
- ③【高知県黒潮市】自治体がDXを進める上での職員のモチベーション向上、課題と解決のための取組、その結果、見えてきたPDCA&OODA混在型スタイルへの転換・定着化についてご紹介

【講師略歴】

田中 由加: 1985年に富士通グループ会社に入社。現在は地方創生に従事。/中川 裕: 2006年に富士通に入社し、ビジネスイノベーション本部にSEとして配属。2022年4月に佐渡市にデジタル政策主幹として着任。/由比 良雄: 2008年に富士通に入社し、西国支社に営業として配属。2022年5月に黒潮市にCIO補佐官として着任。

【SS】社会課題解決

B-21

これからの時代に求められる
働き方とは？

～VUCAの時代における“最適解”をどう導き出すのか～

株式会社イトーキ
コンサルティングセンター センター長横溝 信彦 **W**

コロナ禍を転機とした急速なリモートの普及に伴い私達の働き方や働く環境は激変したが、これは一過性の局面では無く、その本質は本来テクノロジーの進化により訪れるはずだった近未来に直面したと捉える方が適切と考える。であるとするならば過去を懐かしんだり、しがみついたりするのでは無く、「VUCAと呼ばれる不確実性の高い時代における自社の最適解をどう導き出すのか」に注力すべきである。本講演では、様々なデータや事例の読み解きも交えながら、これからの時代に求められる働き方や働く環境を考察すると共に、最適解の導き出し方を考えていく。

【講師略歴】

イトーキへ入社後、官民含め多様なプロジェクトを経験。2009年より新設のPM部門に異動し、プロジェクトマネージャーや統括責任者として経験を重ね2014年より責任者を務める。2018年より現職にてPM・コンサルティング事業全般を統括。上記キャリアと並行し、自社共創施設や本社構築、人事制度改革、営業改革、働き方変革、ミッションステートメント策定など様々なプロジェクトへも参画。外部講演も多数実施。

【SS】社会課題解決

B-22

これからの社会の危機に
行動できる人を創る

～まだ見え危機を想定する～



持続する社会を希求する人

岡崎 博之 **C&P B**

現在地球温暖化が世界共通の問題として認識され、「気候変動枠組条約締約国会議(COP)」の場で問題解決に向けた議論が進められている。対策としてさまざまな計画が立案され行動に移されつつあるが決定打はまだ見つからない(再生可能エネルギー、合成燃料、など)。これまでは実験段階で表面化しなかった対策が本格的に展開する際に大きな問題となることは想定すべきことである。未来に備えたプログラム・プロジェクトマネジメントでは地球温暖化問題を無視することはできない。その問題解決に向けた行動に起因するリスク・危機があることを深く理解することが真に未来に備えることになると思う。

【講師略歴】

石川高専、大阪府大、東工大大学院で工学を学ぶ。化石燃料は現代文明を生み出すと同時に未来に暗雲をもたらしている。しかしながら、化石燃料はこれからも社会にとって主要なエネルギー資源であり続けると思っている。持続する社会におけるキーワード リデュース、リユース、リサイクル(量を減らす、使い続ける、再生する)を元に日々考えている。PMAJ会員。

【IN】イノベーション

B-23

データドリブンによる
品質保証の実現に向けて

～AIによる不採算予兆検知・プロジェクトメンバーのモチベーションを可視化～

富士通株式会社
グローバル品質マネジメント本部 データドリブン品質保証室長吉川 啓介 **W**

システム開発は、より複雑化、大規模化、またDX化に伴い利害関係者が多くなることから、プロジェクトマネジメント(QCD把握)における実態把握が難しくなっている。こうした中、プロジェクトデータ(商談、開発、品質など)を収集し、AIにより不採算となりうるリスクをより早い時点で検知する仕組み、ならびに、プロジェクトメンバーのモチベーション状況を可視化することで、プロジェクトリスクの早期発見を行う取り組みについて紹介する。このようなデータドリブンの取り組みを、品質確保、納期遅延防止、損益悪化防止に対する新たなアプローチとして提案する。

【講師略歴】

富士通株式会社にて産業系SEとしてパッケージ販売、導入支援に従事した後、アプリケーションフレームワークの企画開発～現場適用までを経験し、現在はDX、およびデータドリブン品質保証の推進役として全社プロジェクトの品質向上、不採算撲滅に貢献すべく活動中。

【IN】イノベーション

B-24

実践に生かす「システム×デザイン思考」
～個人の発想だけにたよらない体系的なビジネス協創～

コンサルタント/法政大学大学院准教授/慶應義塾大学大学院非常勤講師

大塚 有希子 **B**

「システムデザイン・マネジメント学」は、複雑な問題を解決するためのソリューションをシステムティックにデザインする考え方です。思い付きだけではなく、デザイン思考やシステム思考などの発想ツールを体系的に利用し、システム・エンジニアリングをベースに要求分析を行い、組織のビジョンと整合性のあるソリューションを創造します。本講演では、システム・デザインについてのツール例やツール体系、個人としてのスキル開発のみならず、システム・デザインできる組織としての環境制度設計の留意点などをご紹介します。

【講師略歴】

博士(システムデザインマネジメント学)、ITコーディネータ・G1インストラクタ、PMP、CBAP、1級FP。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 非常勤講師。慶應義塾大学SDM研究科マネジメントデザインセンター 産学連携研修コーディネータ。法政大学専門職大学院イノベーションマネジメント研究科 准教授。

TIS千代田システムズ株式会社

EX-1

企業で取り組むプロジェクト管理の仕組み作り

～そのポイントとは!?～



石橋 延浩

TIS千代田システムズ株式会社 EPMソリューション部

通信環境が発達している現在の情報化社会では、情報伝達のスピードや情報の正確性がプロジェクトや企業の判断を左右します。各社では属人的な閉ざされたプロジェクト管理から脱却し、企業としてプロジェクト管理をどう考え、どのように標準化、情報共有化していくかの取り組みを行っています。本セッションでは「企業で取り組むプロジェクト管理の仕組み作り」と題して、企業で取り組むプロジェクトの「コスト管理」「設計進捗管理」「調達ステータス管理」「工事進捗管理」「コレポン管理」「プロジェクトKPI分析」など仕組み作りの例を紹介いたします。

【講師略歴】

東洋エンジニアリング株式会社の情報サービス子会社であるテック情報システム株式会社にて、日本で初めて米国プロジェクト管理パッケージPrimavera代理店契約を行い、日本におけるPrimaveraの第一人者として名前を広めていった。エンジニアリング業や製造業を中心にPrimaveraなどのパッケージをベースとした企業型プロジェクト管理システムEnterprise Project Management (EPM) システム構築の導入・運用を数多く手掛けてきた。

株式会社アジャイルウェア

EX-2

今からはじめるCCPM

～LycheeRedmineを使った顧客要望を短納期で実現する実践手順～



小路 慎浩

株式会社アジャイルウェア
パートナー

CCPM(Critical Chain Project Management:クリティカル・チェーン・プロジェクト・マネジメント)とは、タスクの遅延を最小限に抑え、プロジェクトの完了時間を短縮することを目的としたプロジェクトマネジメントの手法です。これから立ち上げるプロジェクトに取り入れてみたいとは思っているものの、実際のところどうしたらいいの?この講演ではそもそもCCPMとは何かを解説し、その上で、LycheeRedmineを使用してCCPMをどのように実践していくのかをご紹介します。実践的なヒントも伝えていきますので、これからCCPMを取り入れてみたい方に参考になれば幸いです。

【講師略歴】

Sier、事業会社、SESと、ITプロジェクト運営に関わる一連の立ち位置の経験を経て、TOC(制約理論)、TOCfe、ファシリテーション、プロジェクトマネジメント系の勉強会に参加・運営をしています。他には、リーダーシップの要素として、“箱”、“NVC”を学んできました。

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社

EX-3

プロジェクトマネジメント資格と対策講座のご紹介

～P2M資格(PMC、PMS)にチャレンジ!～



中島 貴代子

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
教育ソリューション部

当シンポジウム主催の日本プロジェクトマネジメント協会が実施している、「P2M」というプロジェクトマネジメント資格は、IT技術者だけでなく、エンジニアや営業職、学生もチャレンジしている間口の広いPM資格である。ここでは、P2Mの資格体系、試験形式や申込方法、必要な受験資格など、資格取得までの流れを分かりやすくご案内する。また、弊社のP2M資格試験対策講座シリーズ(eラーニング)を使ったおすすめ学習スケジュールや、組織での導入事例もご紹介していく。個人で資格にチャレンジしたい方も、組織にてPM人材育成を担当している方も是非ご覧いただきたい。

【講師略歴】

P2M資格試験対策講座には、制作から関わり15年間販売を担当しています。PM人材育成のご相談お待ちしております。

▼P2M資格試験対策講座シリーズ

<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd/projectmanagement/p2m.html>

▼他にも幅広く人材育成メニューをご用意しております。

<https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd.htm>

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社

EX-4

DX実現に向けてのプロジェクトモデルの適用

～プロジェクトシミュレータ:TeamPortの紹介～



池 大

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社
代表取締役

DXを実践するプロジェクトには、部署間および企業間を超えたステークホルダーとの協調が必要となります。また、変化するニーズや市場動向、顧客からの要望などプロジェクトに対する要件は日々変化しています。このように、プロジェクトプランも進捗に合わせて柔軟に変更し、対応する必要があります。プロジェクトモデルの考え方を取り入れることにより、ダイナミックな変化に対しても、進捗やリソースなどをコントロールすることが可能になります。今回は、弊社が提供しているプロジェクトシミュレータであるTeamPortの事例を交えながら、プロジェクトモデルのご紹介をいたします。

【講師略歴】

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社代表取締役。IT業界で30年以上の経験。IT関連のプロジェクトにSEおよびコンサルタント、PMとして多数参加。また企業のアジャイル開発導入に向けての教育/支援を行っている。リスクマネジメント協会会員 Certified Risk Manager。

PMAJ会員活動

PMAJは、東京に本部を、大阪にPMAJ関西を構えるとともに、各地域にも研究部会を組織し、それぞれ会員活動を展開しています。

会員特典

会員限定コンテンツの視聴
・PMAJ動画アーカイブズ
・PMAJジャーナル
・月例会講演資料
・PMAJ便り
会員特別割引制度適用
会員活動への参加

＜SIG推進部会＞
研究開発のマネジメントSIG
WTech SIG
組立アサリテSIG
ロードマッピングSIG
チェンジマネジメントSIG
グローバルPM SIG
新規事業プログラムマネジメントSIG
PMDX-AWP SIG
PMノウハウ継承研究会SIG
価値創造型PM人材育成研究会SIG

SIG:Specific Interest Group

PMAJ (本部)
PMシンポジウム部会
例会部会
PM研究・研修部会
APC (Advanced PMR Club)
P2M普及・推進部会
SIG推進部会
交流推進

九州
PM研究部会

中四国
PM研究部会

沖縄
PM研究部会

北海道
PM研究部会

東北
PM研究部会

中部
PM研究部会

PMAJ関西
関西PM研究部会

地図出典：イラストストック

Smartsheet Japan株式会社

EX-5 PMツール導入のメリットと選び方



Smartsheet Japan株式会社
カンントリーマネージャー代理 平松 直樹 Smartsheet Japan株式会社
オペレーション ディレクター 加藤 太一

プロジェクトを進めるにあたって、いまや必須となっている「プロジェクト管理ツール」。無料版/有償版をはじめさまざまなツールが乱立するなか、「どのような基準でツールを選ぶべきか」「どのようにツールの機能を使いこなせばよいか」などを、デモを交えながら紹介する。なお、Smartsheetは2005年からプロジェクト管理ツールを提供し、現在Fortune 100企業の90%、同500企業の80%が利用するなど業界トップの米企業。日本市場では、日本法人が販売からサポートまでを担当する。

【講師略歴】

20年以上外資系IT企業に勤め、15年間DocuSign、VMware、Cisco Systemsなどのシリコンバレー本社で勤めた経験あり。現在はSmartsheet Japanでカンントリーマネージャー代理として勤め、プロジェクト管理ツールを日本で広める活動を実施している。

PeopleCert

EX-6 MSP 第5版の概要紹介

～英国政府が開発したプログラムマネジメント標準の最新版を理解する～



SOMPOシステムズ株式会社
ITサービス本部サーバー運用基盤サービスグループ

木下 雅治

英国政府が開発したプログラムマネジメント標準のMSP(Managing Successful Programmes)を紹介する。MSPは1999年の初版の発行以来20年以上活用されており2020年には最新版のMSP第5版が発行された。本講演ではMSPの全体像、原則、テーマ、プロセス、用語、資格制度の紹介に加えて、プログラムの成功事例として2012年ロンドンオリンピックを現地視察も交えて紹介する。VUCA時代を背景として日本国内においてもベネフィットの実現が議論されていることが増えてきた。MSPは特にケイパビリティとベネフィットの実現に重点をおいている。これらの領域に関心がある方はMSPを通じてより深い理解が得られるだろう。

【講師略歴】

損害保険ジャパンおよびSOMPOシステムズでIT企画、プロジェクト、システム運用、研修講師、業務改革推進に従事。PMAJ PM研究・研修部会員、部会講師。PRINCE2 Practitioner, MSP Practitioner, MoP Foundation, P3O Foundation, PMP, ITIL Expert、修士(システムエンジニアリング学)。

日本プロジェクトマネジメント協会

EX-7 PM実務家の生涯学習の場と手段と指針を提供する

～PMAJニュービジョン～



日本プロジェクトマネジメント協会
理事長

加藤 亨

PMAJは、PM実務家の育成を通して活力ある社会の醸成に貢献する。具体的には以下の活動を行う。

- 「場」の提供
PMシンポジウム、新春、産学官連携、地域のPMセミナーを運営し、先進PM事例や研究成果を発信すると同時に、PM実務家の交流の場としての部会・SIG活動を支援する。
- 「手段」の提供
P2M資格・試験制度の運営を通して、PMスキルのベンチマーキングや学習の機会を提供する。
- 「指針」の提供
P2M標準ガイドブックは、2001年に初版、2007年に第2版、2014年に第3版を発行し、PM学習の指針として広く活用されている。今後も継続的な改訂を通して、PM実務家に対して自己研鑽の指針を示して行く。

【講師略歴】

1978年 千代田化工建設(株)入社後、同社の様々な情報化プロジェクトを担当後、同社グループ企業の執行役員、取締役、社長を歴任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP、技術士(情報工学部門、総合技術監理部門)、システムアナリストなど

日本プロジェクトマネジメント協会

EX-8 日本プロジェクトマネジメント協会の活動紹介



日本プロジェクトマネジメント協会

PMAJ事務局

PMシンポジウム2023を主催する日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)について、①「協会について」で、協会の運営方針、業務内容、ミッションを、②「P2Mの普及事業」で、協会がP2MやPMの普及の為に出版している書籍類を、③「P2M資格制度」で、P2Mの資格体系と試験の解説を、④「PMAJ会員活動」で、会員となるメリットと会員活動としての部会とSIGを、⑤「PMに関する普及・研修・セミナー事業」で、実施している教育コースやセミナーを紹介する。PMAJとは何か、PMAJ会員となるメリットは何か、会員活動にはどんなものがあるかを知りたい方は、ぜひご覧いただきたい。(全14分)

【講師略歴】

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
所在地：東京都港区東麻布1-5-2 ザイマックス東麻布ビル7階
TEL:03-6234-0551
E-mail:admi-sympo-cs@pmaj.or.jp URL:https://www.pmaj.or.jp

2023年度PMセミナー開催予定

関西PMセミナー
2023年6月9日(金)
大阪 マイドームおおさか

中四国PMセミナー
2023年10月27日(金)
広島 YMCA国際文化センター

九州PMセミナー
2023年12月8日(金)
福岡 電気ビル共創館

沖縄PMセミナー
2024年2月16日(金)
那覇 会場未定

各地域のPMセミナーを開催し、地域の情報を日本全国に発信！！



北海道PMセミナー
2023年7月21日(金)
札幌 札幌市民交流プラザ

東北PMセミナー
2023年11月22日(水)
仙台 フォレスト仙台

産学官連携PMセミナー
2023年11月9日(木)
東京 タワーホール船堀

新春PMセミナー
2024年1月26日(金)
東京 タワーホール船堀

中部PMセミナー
2023年10月13日(金)
名古屋 ウィンクあいち

地図出典：イラストストック

● ライブ配信には、Zoomを採用

■ 事前に視聴環境の確認をお願いします。

ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレットなどから視聴できます。

視聴にはZoomアプリが必要ですので、お申込みの前に（Zoom提供のテストページ）にて接続確認テストをしてください。

当日、お客様の通信サービスや利用機器、ブラウザなどの影響により、視聴ができない場合、PMAJでも対応ができかねる場合がございますのでご了承ください。

● ライブ講演を会場で直接受講したい方

■ Day1、Day2それぞれお申込みの先着100名様まで会場で受講いただけます。

充分なコロナ対策を施したうえで実施の予定ですが、開催当時の状況によっては、無観客講演に変更することがあります。

● ライブ配信・オンデマンド配信を問わず、配信内容の録画・録音、ならびに正規申込みされた方以外の視聴は禁止とします。

■ 講演動画の著作権は、講演者およびPMAJに帰属しており、この動画の一部分または全部を著作権者に無許可で使用することは、著作権法に反することとなります。

● 最新情報はPMAJの公式WEBページにて随時更新します。

■ 詳細情報につきましては、右記URLからご確認ください。



<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2023/index.html>

協賛・パートナー企業



お申込み方法

WEBページにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2023』のご案内ページをご参照ください。
<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2023/index.html>



参加申込み期限・お支払い方法

	早期割引申込	通常申込	オンデマンド配信のみ申込
申込期限	～7月31日(月)	8月1日(火)～8月29日(火)	8月30日(水)～10月2日(月)
支払期限	～8月5日(土)	9月1日(金)	・クレジット払いのみです。 ・申込受付後2営業日以内に決裁願います。 ・決済確認後2営業日以内に視聴用URLを送付します。

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付確認メールをお送りいたします。
 また、お振込み時には、参加者名及び電子メール(受付確認メール)に記載のお申込み番号を必ずご記入ください。

※クレジットカードご利用の場合の手続きは、WEBページに記載しています。
 ※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
 ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもってお申込み願います。
 ※請求書・領収書はすべてメール添付での送付となります。
 ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
 ※お申込み後のキャンセル手続きは、WEBページに記載しています。

口座名：三菱UFJ銀行 本店 普通 0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 トフビニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
 E-mail : admi-sympo-cs@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

参加費

注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。入会ご希望の方は、下記URLからお手続きください。
<https://www.pmaj.or.jp/kyoukai/nyuukai.html>

(上段：税込価格、下段：本体価格)

	早期割引 〔～7月31日(月)〕			通常申込 〔8月1日(火)～8月29日(火)〕			オンデマンド配信のみ申込 〔8月30日(水)～10月2日(月)〕		
	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し	Day1	Day2	Day1、Day2 通し
PMAJ個人会員	12,000円 (10,909円)	12,000円 (10,909円)	23,300円 (21,182円)	14,000円 (12,728円)	14,000円 (12,728円)	26,000円 (23,637円)	25,500円 (23,182円)	25,500円 (23,182円)	48,000円 (43,637円)
PMAJ法人正会員の職員	14,500円 (13,182円)	14,500円 (13,182円)	28,200円 (25,637円)	19,000円 (17,273円)	19,000円 (17,273円)	33,000円 (30,000円)			
PMC、PMS、PMR有資格者	17,000円 (15,455円)	17,000円 (15,455円)	33,300円 (30,273円)	20,000円 (18,182円)	20,000円 (18,182円)	38,000円 (34,546円)			
ENAA賛助会員/後援・協賛 団体の職員、PMI会員、 ITC資格者	23,300円 (21,182円)	23,300円 (21,182円)	42,600円 (38,728円)	25,000円 (22,728円)	25,000円 (22,728円)	45,500円 (41,364円)			
一般参加者	23,800円 (21,637円)	23,800円 (21,637円)	46,000円 (41,819円)	25,500円 (23,182円)	25,500円 (23,182円)	48,000円 (43,637円)			
学 生	無 料 学生を本分とする方(社会人学生は対象となりません)。要学生証提出。証明書等は発行いたしません。								

Day1 ——— 【内容】基調講演+特別講演：会場参加9月7日(但し申込先着100名様)、
 ライブ配信 9月7日、9月7日収録分のオンデマンド配信 9月12日～10月8日
 一般講演：オンデマンド配信 9月7日～10月8日

Day2 ——— 【内容】基調講演+特別講演：会場参加9月8日(但し申込先着100名様)、
 ライブ配信 9月8日、9月8日収録分のオンデマンド配信 9月12日～10月8日
 一般講演：オンデマンド配信 9月8日～10月8日



PMAJ

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
Project Management Association of Japan (PMAJ)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMAJ会員のための定例の勉強会、PM研修、機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。
このPMシンポジウムも会員によるPM実践の場として、多くのボランティアメンバーを交え企画運営されています。